

平成 25 年度

公立大学法人神戸市外国語大学の業務実績に関する評価結果

1. 全 体 評 価
2. 項 目 別 評 価

平成 2 6 年 8 月

神戸市公立大学法人評価委員会

# 目 次

はじめに	・・・ 1
1. 全体評価	・・・ 2
2. 項目別評価（中期目標項目評価）	
(1) 国際的に通用する人材の育成	・・・ 4
(2) 高度な学術研究の推進	・・・ 5
(3) 地域貢献	・・・ 6
(4) 国際交流	・・・ 7
(5) 柔軟で機動的な大学運営	・・・ 8
3. 項目別評価（中期計画項目評価）	
(1) 国際的に通用する人材の育成	
1 高度なコミュニケーション能力の養成	
(1) 複数外国語運用能力の獲得	・・・ 9
(2) 幅広い教養の修得	・・・ 10
(3) 高度な外国語運用能力と幅広い知識に基づく実践的な発信力の強化	・・・ 11
2 開かれた大学院教育	
(1) 大学院教育の充実	・・・ 12
(2) 研究者の育成	・・・ 13
3 教育制度の継続的改革	・・・ 14
4 入試制度の検証	・・・ 15
5 学生への生活支援と進路・就職支援	
(1) 学生への相談支援	・・・ 15
(2) 就職支援の拡充	・・・ 16
(2) 高度な学術研究の推進	
1 外国学の研究拠点としての役割の充実	
(1) 大学独自の研究プロジェクト	・・・ 18
(2) 外部資金を活用した研究活動の拡大	・・・ 18
(3) 外国学研究所事業の充実	・・・ 19
2 研究成果等の公表の促進	・・・ 20
3 海外の研究機関との学術提携	・・・ 20
(3) 地域貢献	
1 市民の生涯学習意欲への対応	
(1) 社会人学生の受入	・・・ 21
(2) 市民の生涯学習機会の提供	・・・ 21
2 神戸市の教育拠点としての役割の充実	
(1) 小中高校の英語教育の支援	・・・ 22
(2) 高大連携、大学間連携の推進	・・・ 24
3 語学教員等の輩出	・・・ 25
4 ボランティア活動の支援	・・・ 25
5 国際都市神戸への貢献	
(1) 神戸市の国際交流事業などへの支援	・・・ 26

(2) 地元企業や地域への貢献	・ ・ ・ 27
(4) 国際交流	
1 留学支援制度の拡充	・ ・ ・ 29
2 外国人留学生の受入れと学内の国際交流機会の拡充	
(1) 日本語プログラムの充実	・ ・ ・ 30
(2) 外国人留学生への支援	・ ・ ・ 31
3 海外の教育機関との交流・連携の拡充	・ ・ ・ 32
(5) 柔軟で機動的な大学運営	
1 自律的・効率的な大学運営	
(1) 運営体制の改善	・ ・ ・ 34
(2) 事務などの効率化・合理化	・ ・ ・ 35
(3) 大学データの蓄積及び活用	・ ・ ・ 36
2 人事の適正化	
(1) 教職員人事の適正化	・ ・ ・ 36
(2) 人材育成の推進	・ ・ ・ 37
3 財務内容の改善	
(1) 自己財源の確保	・ ・ ・ 38
(2) 予算の適正化及び効率的な執行	・ ・ ・ 38
(3) 資産の運用管理の改善	・ ・ ・ 39
4 点検及び評価	・ ・ ・ 40
5 情報発信の拡充	・ ・ ・ 40
6 その他業務運営	
(1) 環境への配慮	・ ・ ・ 42
(2) 危機管理	・ ・ ・ 43
(3) 安全管理の取組	・ ・ ・ 43
(4) 教育研究環境の整備	・ ・ ・ 44
(5) 創立 70 周年記念事業の企画及び実施	・ ・ ・ 44
(6) 内部統制	・ ・ ・ 45
大学の概要	・ ・ ・ 46
用語解説	・ ・ ・ 47
公立大学法人神戸市外国語大学の業務実績に関する評価方針	・ ・ ・ 51

## はじめに

神戸市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第 28 条の規定に基づき、公立大学法人神戸市外国語大学の平成 25 年度業務実績について、教育研究の特性や運営の自主性・自律性に配慮しながら、中期目標・中期計画の実施状況等を踏まえた多面的な観点から総合的に評価を実施した。

この評価結果が、神戸市外国語大学が行う事務及び事業の一層の質的向上につながることを期待する。

### ○評価の方法

- ・法人の自己評価に基づいて行うことを基本とする
- ・教育研究に関してはその特性に配慮し、事業の外形的・客観的な実施状況の評価を行うこととし、専門的観点からの評価は行わない
- ・評価は、項目別評価（中期計画項目評価、中期目標項目評価）と全体評価により行う
- ・法人は項目別評価のみを行う
- ・項目別評価はS～Cの4段階評価を行う

S	中期目標・中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である
A	中期目標・中期計画の達成に向け順調に進捗している
B	中期目標・中期計画の達成に向けやや遅れている
C	中期目標・中期計画の達成に向け大幅に遅れている

### ○委員名簿

	氏 名	役 職 等
委員長	金児 暁嗣	相愛学園理事長・相愛大学学長、 大阪市立大学名誉教授（元理事長・学長）
委 員	井野瀬 久美恵	甲南大学文学部教授
	今村 弥雪	川崎重工業(株)人事本部ダイバーシティ・グローバル推進課課長
	谷澤 実佐子	有限責任監査法人トーマツ シニアマネジャー、公認会計士
	吉田 豊	京都大学大学院文学研究科教授

## 1. 全体評価

平成 25 年度は第 2 期中期計画の初年度として、理事長のリーダーシップのもと役員・教職員が一体となり、中期目標および中期計画の確実な達成に向けて、種々の大学改革と自律的・効率的運営に取り組んだ結果、主に次のような成果が認められた。

「国際的に通用する人材の育成」の項目では、高度なコミュニケーション能力の養成をめざし、新たに 3 学科で専攻語学のガイドラインを策定するとともに、ラーニングコモンズの設置など図書館のリニューアルが実施された。また、修士課程における課題研究コースを整備したほか、新たにモナッシュ大学と通訳翻訳分野に関するダブルマスター制度協定を締結するなど、修士課程の充実も図られており、各学科コースの授業評価アンケート結果や志願者倍率は引き続き良好な結果が示されている。

さらに、キャリアデザイン科目の開講や「女子学生社会人力アッププロジェクト」の開催などで様々な観点から就職支援を行ったほか、卒業生の協力により海外インターンシップ制度を新設しており、就職内定率は引き続き全国平均を上回る高水準で推移している。

「高度な学術研究の推進」の項目では、言語学系で国内最大規模の日本言語学会大会を開催したほか、学内研究事業活性化のためのリサーチプロジェクトの新設、国際会議・シンポジウムの開催支援制度の創設など、学内研究の支援体制を整えた。

また、科学研究費補助金説明会において外部講師を招き講演会を行うなど、外部研究資金の活用にも取り組んだ結果、科学研究費補助金の獲得件数が増加した。さらにリポジトリシステムの本格実施を開始するなど、大学内外での研究活動がさらに活性化してきている。

「地域貢献」の項目では、市民の生涯学習の機会をつくるため、第 2 部英米学科における社会人学生の受け入れや、神戸市立博物館と連携した講演会の開催を行ったほか、図書館の利用期間拡充により市民利用が増加するなど、大学が持つ知的資源を様々な形で地域社会に還元する取り組みが行われている。

また、外大の特色を生かした学校支援事業として、大学教員による現職小中高校教員への英語教育の支援や、スクールサポーター・イングリッシュサポーター等での学生派遣などを継続して実施し、神戸市の教育拠点としての役割を果たすとともに学生のボランティア活動も支援している。

さらに、神戸市などが行う国際交流事業や国際スポーツ大会への学生派遣や、模擬国連世界大会へ学生が参加し名誉表彰を受けるなど、国際都市神戸への貢献も図られている。

「国際交流」の項目では、卒業生の多大なる支援のもと「荻野スカラシップ」が創設され、他大学にない充実した留学支援制度が整えられたほか、帰国留学生による体験談発表会や個別相談会の開催など、学生の留学促進が図られている。また、新たに 4 大学と交換協定を締結したことで、海外の教育機関との交換交流提携先が一層開拓された。

さらに、受け入れた外国人留学生に対し、メンターや日本語会話パートナーなどの学生ボランティアが支援することで、交流が進んでいる。

「柔軟で機動的な大学運営」の項目では、理事長兼学長の適切な運営の下、役員と部会、学科等とのコミュニケーションを図る仕組みが構築され意思疎通が促進されたほか、専任教員の採用や固有職員の育成を行うことで、大学業務の高度化・専門化への対応が図られている。

なお、学校教育法の改正（平成 27 年 4 月 1 日施行予定）により、学長のガバナンスが大幅に強化されることを踏まえ、平成 27 年度の年度計画にはその趣旨を反映されたい。

また、2016（平成 28）年度に創立 70 周年を迎えることから、記念事業の実施に向け、神戸市のふるさと納税制度を活用するなど寄付方法の工夫を行っているほか、他大学との共同調達や総人件費の適正管理などの支出削減、施設の外部貸付促進による収入確保など財務内容の改善が図られている。

以上のような中期目標・中期計画の達成に向けた取組状況を踏まえ、総合的に評価した結果、ほぼ順調に進捗していると認められる。

第 2 期中期計画の着実な達成に向け、P D C A サイクルを確実に実行し自律的・効率的な大学運営を行い、社会の様々な分野で活躍できる「行動する国際人」を養成するため、神戸市外国語大学の伝統を活かして、魅力ある大学づくりに引き続き取り組まされたい。

#### <中期目標項目評価及び中期計画項目評価>

項 目	中期目標項目評価	中期計画項目評価				
		項目数	S	A	B	C
(1) 国際的に通用する人材の育成	A 順調に進捗している	9		8	1	
(2) 高度な学術研究の推進	A 順調に進捗している	5		4	1	
(3) 地域貢献	A 順調に進捗している	8		7	1	
(4) 国際交流	A 順調に進捗している	4	2	2		
(5) 柔軟で機動的な大学運営	A 順調に進捗している	16		16		
合 計		42	2	37	3	

## 2. 項目別評価（中期目標項目評価）

### （1）国際的に通用する人材の育成

<p>評価委員会評価</p> <p>評価 <u> A </u></p>	<p>（評価理由）</p> <p>学部・修士課程の充実が図られており、学生の効果的な学修に配慮している。</p> <p>さらに、学生への就職支援や海外インターンシップ制度の創設などにより、就職内定率は引き続き全国平均を上回る高水準で推移しており、おおむね計画通りに進捗していると認められるため。</p>
<p>自己評価</p> <p>評価 <u> A </u></p>	<p>（評価理由）</p> <p>新たにガイドラインを策定するとともに、修士課程における課題研究コースの整備を行った。また、新たにモナッシュ大学とダブルマスター制度の協定を締結することができた。さらに、授業への満足度や就職内定率も高水準であるとともに、学生相談担当教員を設置するなど、良好な大学運営を行うことができた。</p>
<p>実施状況の概要</p>	<p>（実施状況）</p> <p><b>1 高度なコミュニケーション能力の養成</b></p> <p><b>(1) 複数外国語運用能力の獲得 (P. 9)</b></p> <p>新たにロシア・中国・イスパニア学科において専攻語学のガイドラインを策定するとともに、eラーニングシステムのサービス内容を見直した。</p> <p><b>(2) 幅広い教養の修得 (P. 10)</b></p> <p>初年次教育における情報メディア機器や図書館の活用方法を教授するとともに、多様な学修スタイルに対応したラーニングコモنزの設置など図書館ロビーのリニューアルを実施した。</p> <p><b>(3) 高度な外国語運用能力と幅広い知識に基づく実践的な発信力の強化 (P. 11)</b></p> <p>アクティブラーニングに対応した教室と学生の自発的な学修支援スペースの整備方針を決定した。また、大学生マーケティングコンテストや学内ビブリオバトルを開催し学生への発表の機会を提供した。</p> <p><b>2 開かれた大学院教育</b></p> <p><b>(1) 大学院教育の充実 (P. 12)</b></p> <p>修士課程における課題研究コースを設置し、それに伴う必要な学則・規則の改正を行うとともに、英語教育学専攻のプログラム充実を図った。</p> <p><b>(2) 研究者の育成 (P. 13)</b></p> <p>東京外国語大学と合同セミナーを開催するとともに海外の国際会議などで研究発表を行う大学院生（博士課程）5名に渡航費等の一部を助成した。また、モナッシュ大学とダブルマスター制度の協定を締結した。</p> <p><b>3 教育制度の継続的改革 (P. 14)</b></p> <p>授業評価アンケートを実施し、授業への総合評価が4.3点と満足度の高い結果を確認した。また、教育支援事業アンケート、学生生活調査を実施した。</p> <p><b>4 入試制度の検証 (P. 15)</b></p> <p>2014年度後期入試制度の変更について受験者への周知徹底を図るとともに、推薦入試の全国枠について効果等について検証を行った。</p> <p><b>5 学生への生活支援と進路・就職支援</b></p> <p><b>(1) 学生への相談支援 (P. 15)</b></p> <p>学生相談担当教員を設置するとともに、カウンセラーとの相談・意見交換を行った。また、「相談室だより」を年4回発行するとともに、学生に対して各種窓口があることについてホームページ等を通じて周知徹底を図った。</p> <p><b>(2) 就職支援の拡充 (P. 16)</b></p> <p>海外インターンシップ制度を新たに設けた。また「女子学生社会人力アッププロジェクト」を開催するとともに、キャリアデザイン科目を開講した。</p>

(2) 高度な学術研究の推進

<p><b>評価委員会評価</b></p> <p>評価 <u> A </u></p>	<p>(評価理由)</p> <p>日本言語学会大会の開催やリサーチプロジェクトの新設、国際会議・シンポジウムの開催支援制度の創設など、学内研究の支援体制を整えた。</p> <p>また、科学研究費補助金の獲得件数の増加やリポジトリシステムの本格実施など、大学内外での研究活動がさらに活性化してきており、おおむね計画通りに進捗していると認められるため。</p>
<p><b>自己評価</b></p> <p>評価 <u> A </u></p>	<p>(評価理由)</p> <p>学内の共同研究班事業を活性化するため、リサーチプロジェクト事業を創設することができた。また、国際会議やシンポジウムの開催を支援する制度を創設することにより、研究プロジェクトを支援する制度を整えることができた。</p> <p>さらに、教員が意欲的に外部研究資金の活用に取り組んだ結果、科学研究費補助金の獲得件数が増加した。</p>
<p><b>実施状況の概要</b></p>	<p>(実施状況)</p> <p><b>1 外国学の研究拠点としての役割の充実</b></p> <p><b>(1) 大学独自の研究プロジェクト (P. 18)</b></p> <p>国際会議やシンポジウムの開催を支援する制度を創設し、募集を行った。また、言語学系で国内最大規模の日本言語学会の大会(第147回)を開催した。</p> <p><b>(2) 外部資金を活用した研究活動の拡大 (P. 18)</b></p> <p>科学研究費補助金説明会において外部講師を招き講演会を行うとともに、科学研究費補助金申請アドバイジング窓口を継続して設置する等、運用面も含めた総合的な支援を行った。</p> <p>また、リサーチプロジェクト事業の採択プロジェクトに科学研究費補助金申請を義務付けることにより申請を促す仕組みを整備した。</p> <p><b>(3) 外国学研究所事業の充実 (P. 19)</b></p> <p>学内の研究事業を活性化するため、リサーチプロジェクト事業を創設し、募集を行った。また、神戸研究学園都市大学交流推進協議会(ユニティ)の共同研究班事業について、昨年度に引き続き申請を行った。</p> <p><b>2 研究成果等の公表の促進 (P. 20)</b></p> <p>学術論文などを保存・公開するリポジトリシステムの本格実施を開始するとともに、学外から招へいた研究者や客員教授による講演会などを7件開催するなど、一般市民への公開を行った。</p> <p><b>3 海外の研究機関との学術提携 (P. 20)</b></p> <p>新たな学術提携先の検討を行ったが、提携にまでは至らなかった。また、既存の提携機関との協定更新については、協議中である。</p>



(3) 地域貢献

<p><b>評価委員会評価</b></p> <p>評価 <u>A</u></p>	<p>(評価理由)</p> <p>第2部英米学科における社会人学生の受け入れや、市民講座の開催、図書館の利用期間拡充など、大学が持つ知的資源が様々な形で地域社会に還元されている。また、神戸市の教育拠点としての役割を果たすとともに学生のボランティア活動支援、国際交流事業や国際スポーツ大会への学生派遣など、国際都市神戸への貢献も図られており、おおむね計画通りに進捗していると認められるため。</p>
<p><b>自己評価</b></p> <p>評価 <u>A</u></p>	<p>(評価理由)</p> <p>科目等履修制度について、受講しやすい制度へ改正するとともに、図書館の利用期間の拡充など市民の利便性向上に寄与した。また、小中高校の英語教育の支援を行うため、様々な研修の開催や講師派遣を行った。さらに、大規模災害時の学生ボランティア活動への支援制度を創設した。</p>
<p><b>実施状況の概要</b></p>	<p>(実施状況)</p> <p><b>1 市民の生涯学習意欲への対応</b></p> <p><b>(1) 社会人学生の受入 (P. 21)</b></p> <p>第2部英米学科の社会人特別選抜などで社会人学生を20名受け入れた。また、科目等履修生制度について学部と第2部の区分を一本化し、希望する時間帯に受講できるよう制度改正を行った。</p> <p><b>(2) 市民の生涯学習機会の提供 (P. 21)</b></p> <p>オープンセミナーについては、受講者の利便性の高い時間帯について開催した結果、160人の参加があった。また、神戸市立博物館と共催して講演会を実施した。さらに、図書館において利用期間の拡充を行うことにより2,592名の入館があり活発な市民利用につながった。</p> <p><b>2 神戸市の教育拠点としての役割の充実</b></p> <p><b>(1) 小中高校の英語教育の支援 (P. 22)</b></p> <p>現職教員の指導力向上の支援のため、小学校外国語活動基本研修、中高英語科教員スキルアップ研修、小学生の外大訪問と英語インタビュー、中学生イングリッシュサマースクール等を開催した。さらに、県内他都市や他府県において本学英語科教員が研修講師や審査員等を数多く務めた。</p> <p><b>(2) 高大連携、大学間連携の推進 (P. 24)</b></p> <p>大学連携セミナー「こうべ生涯学習カレッジ」等に講師等を派遣した。また、ユニティの共同事業として公開講座、語学講座、単位互換、高大連携とともに職員研修、情報交換を行った。</p> <p><b>3 語学教員等の輩出 (P. 25)</b></p> <p>面接対策、模擬授業等の教員採用セミナーを実施するとともに、「教職トークライブ」など教職支援行事を5回開催した。また、学生への情報発信機能の強化のため、教職サロンを学舎1階へ移転する方針を決定した。</p> <p><b>4 ボランティア活動の支援 (P. 25)</b></p> <p>新入生を対象にボランティア入門講座を開催するとともに、大規模災害時の学生ボランティア活動への支援制度を創設し、4名のボランティアを派遣した。また、スクールサポーターやイングリッシュサポーターとして、学校現場に学生を派遣した。</p> <p><b>5 国際都市神戸への貢献</b></p> <p><b>(1) 神戸市の国際交流事業などへの支援 (P. 26)</b></p> <p>大邱国際大学フェスティバル、神戸市などが行う国際交流事業や国際スポーツ大会などに学生を派遣した。また、韓国で開催された模擬国連世界大会に学生代表が参加し名誉表彰を受けた。</p> <p><b>(2) 地元企業や地域への貢献 (P. 27)</b></p> <p>第3回マーケティングコンテストを実施するとともに、キャンドルイベント等地域連携事業へ参加した。</p>

(4) 国際交流

<p><b>評価委員会評価</b></p> <p>評価 <u> A </u></p>	<p>(評価理由)</p> <p>荻野スカラシップの創設により充実した留学支援制度が整えられたほか、帰国留学生による体験談発表会や個別相談会の開催、新たに4大学と交換協定を締結したことで、学生の留学促進が図られ、海外の教育機関との交換交流提携先が一層開拓された。また、外国人留学生に対する学生ボランティア支援による交流促進など、計画通り順調に進捗していると認められるため。</p>
<p><b>自己評価</b></p> <p>評価 <u> A </u></p>	<p>(評価理由)</p> <p>新たに荻野スカラシップを創設することにより留学支援の更なる充実を図るとともに、海外インターンシップ派遣プログラムを実施することにより、学生のコミュニケーション能力の向上に寄与することができた。また、新たに4大学と交換協定を締結するとともに、モナッシュ大学とダブルマスター制度の協定を締結することができた。</p>
<p><b>実施状況の概要</b></p>	<p>(実施状況)</p> <p><b>1 留学支援制度の拡充 (P. 29)</b></p> <p>新たに、荻野スカラシップを創設することにより、留学支援の更なる充実を図ることができた。また、TOEFL の e ラーニング実施等スコアアップ支援を行うとともに、帰国留学生による留学体験談の発表会や個別相談会を実施した。</p> <p>さらに、海外インターンシップ派遣プログラムを実施することにより、商品の仕入れから店頭販売まで幅広く経験することができ、コミュニケーション能力の向上に寄与した。</p> <p><b>2 外国人留学生の受入れと学内の国際交流機会の拡充</b></p> <p><b>(1) 日本語プログラムの充実 (P. 30)</b></p> <p>日本語プログラムの実施として、安定した留学生受入体制づくりのため、日本語プログラムについて3コースの柔軟なクラス・プログラムを編成し、春学期12名、秋学期8名、サマーコース3名の合計23名の留学生を受け入れた。</p> <p>さらに、日本人学生との交流を図るため、2016年度に日本語プログラム教室を移転することを決定した。</p> <p><b>(2) 外国人留学生への支援 (P. 31)</b></p> <p>生活支援(メンター)19名、日本語会話パートナー32名の学生ボランティアを確保することにより留学生の支援を行った。</p> <p>また、英語・ロシア語・中国語・スペイン語・ドイツ語及び日本語のチャット事業に868名が参加した。</p> <p>さらに、日本語留学生によるスピーチ発表会、シネマプロジェクト、神戸弁語劇において、学生ボランティア団体の協力を得て、そのコンテンツの作成や発表会等の運営を行った。</p> <p><b>3 海外の教育機関との交流・連携の拡充 (P. 32)</b></p> <p>ローマ大学、サラマンカ大学、マドリード自治大学、ミュンヘン大学と交換協定を新規に締結するとともに、モナッシュ大学と通訳翻訳分野に関するダブルマスター制度の協定を締結した。</p> <p>また、ロシア、中国、イスパニア学科での交換教員受入を継続し、国際関係学科においてビクトリア大学の研究者を集中講義に招へいた。</p> <p>さらに、ダブルディグリー制度についてエルマイラ大学と協定を締結し、天津外国語大学からダブルマスター生を受け入れた。</p>

(5) 柔軟で機動的な大学運営

<p>評価委員会評価</p> <p>評価 <u> A </u></p>	<p>(評価理由)</p> <p>役員と部会とのコミュニケーションを図る仕組みが構築されたほか、専任教員の採用や固有職員の育成を行い、大学業務の高度化・専門化への対応が図られている。また、創立 70 周年記念事業の実施に向けた寄付方法の工夫や他大学との共同調達、施設の外部貸付促進などにより財務内容の改善が図られ、おおむね計画通りに進捗していると認められるため。</p>
<p>自己評価</p> <p>評価 <u> A </u></p>	<p>(評価理由)</p> <p>役員と部会、学科等との協議の場を設けることにより、コミュニケーションを図る仕組みを構築し、様々な事業の課題等について、意思疎通を図ることができた。また、人事の適正化や組織の見直し、事務の効率化を行うことにより、高度化・専門化する大学業務への円滑な対応を行った。</p> <p>さらに、大学ロゴを活用することにより、大学の活動情報を広く社会に発信するとともに、70 周年記念事業実行委員会を立ち上げた。</p>
<p>実施状況の概要</p>	<p>(実施状況)</p> <p><b>1 自律的・効率的な大学運営 (P. 34～36)</b></p> <p>様々なテーマで役員と部会との協議を行い、事業における課題等について意思疎通を図った。</p> <p>また、今後の情報化関係業務を推進するため、経営企画グループ情報化班と学術情報センターグループ情報メディア班を情報メディア班に再編・統合することにより、企画・開発・運用・管理を一体的に行うことができるようになった。</p> <p>さらに、教職員が一体となり他大学の視察を行いその成果を発表する施設見学報告会を開催し、その報告に対して学長より表彰を行った。</p> <p><b>2 人事の適正化 (P. 36～37)</b></p> <p>専任教員 4 名の採用を行うとともに、客員教員について引き続き契約の更新を行うことにより、教育研究体制の充実を図ることができた。</p> <p>職員体制については市派遣職員を計画的に削減しながら、固有職員の採用を行い、将来中核となる職員の育成を行うとともに、学内勉強会等を開催した。</p> <p><b>3 財務内容の改善 (P. 38～40)</b></p> <p>確実な授業料収入の確保を図るとともに、施設の外部貸付の促進を行い収入確保に努めた。</p> <p>70 周年記念事業に向けて、神戸市の協力を得てふるさと納税制度を活用した募金方法を決定した。一方、支出の削減のため、総人件費の適正管理に努めるとともに、他大学と共同調達を行うことにより経費削減に努めた。</p> <p><b>4 点検及び評価 (P. 40)</b></p> <p>第 1 期の業務実績及び毎年の業務実績について評価委員会の外部評価を受審した。評価結果について、関係部会等へのフィードバックにより、効率的かつ効果的に PDCA サイクルを推進した。</p> <p><b>5 情報発信の拡充 (P. 40～42)</b></p> <p>大学ロゴを活用することにより、広く社会に発信するとともに、海外への情報発信のため、ホームページにおける英語版の動画コンテンツを追加するとともに、大学院案内の英語版、大学案内の中国語版を作成した。</p> <p><b>6 その他業務運営 (P. 42～45)</b></p> <p>教育研究環境の整備として、第 2 学舎増設の基本設計を完成させるとともに、大ホールのトイレ改修について先行実施を行った。さらに、70 周年記念事業実行委員会を立ち上げるとともに、三つの専門部会も立ち上げた。</p> <p>また、神戸環境マネジメントシステム (KEMS ステップ 2) の認証を更新、防犯カメラ増設による学内駐車場の監視強化、学生の海外留学に係る危機管理の啓発、学内の安全衛生管理の充実などに努めた。また、内部監査を計画的に実施するなど運用の適正化を図ることにより内部統制の維持に努めた。</p>

### 3. 項目別評価（中期計画項目評価）

#### (1) 国際的に通用する人材の育成

法人自己評価					評価委員会評価																
中期計画	年度計画	実施状況	評価	評価理由																	
<b>1 高度なコミュニケーション能力の養成</b> (1) 複数外国語運用能力の獲得 複数外国語運用能力の獲得のため、語学授業の少人数クラス化の成果を検証しつつ、新たに、全学科の専攻語学のガイドラインを策定する。さらに、外国語運用能力の高い学生の履修環境を拡充するなど、質の高い語学教育を推進する。 あわせて、学生の授業内外での語学修得を支援するほか、近年、我が国と経済や文化などの様々な交流が深まる東南アジア地域などに関して、言語や文化などの教育内容を拡充する。	○新たにロシア、中国、イスパニアの各学科において、専攻語学のガイドラインを策定する。 ○少人数クラス化後の専攻語学について、学生意見などを踏まえ、授業のさらなる充実方策を検討する。 ○英語学習のためのインターネット上の学修環境の充実を試行的に実施する。	<b>【年度計画の取組状況】</b> ○英米、国際関係学科における専攻英語のガイドラインに加え、ロシア、中国、イスパニア学科の各言語のガイドラインを新たに策定した。 (参考指標) 語学授業ガイドラインの整備数 <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>2011</td> <td>2012</td> <td>2013</td> </tr> <tr> <td>整備数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> </table> ○授業評価アンケートにおいて、その学生意見に対して学科ごとに教員回答をまとめ、「外大ひろば」(学内広報)を学内配布するとともに、ホームページでも掲載した。 ○専攻英語のガイドラインの教育目標・方法等を担当教員間で共有するため、授業日程開始前の4月に専任及び非常勤講師との懇談会を開催した。 ○利用が少なかったeラーニングシステムのサービス内容を見直し、TOEIC対策及びTOEFL対策コースに分けて募集を行った。また自宅PCからも利用可能とした。 (参考指標) eラーニングの提供メニュー数 <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>2011</td> <td>2012</td> <td>2013</td> </tr> <tr> <td>整備数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> </table> ○東南アジア地域の文化等を学ぶ機会を学生に提供するため、ネイサン・バデノック氏	年度	2011	2012	2013	整備数	2	2	5	年度	2011	2012	2013	整備数	1	1	4	A	新たにガイドラインを策定するとともに、eラーニングの充実などにより、語学授業の質向上を進めることができた。 また、東南アジア地域の文化等を学ぶ機会を学生に提供することができた。	評価 A
			年度	2011	2012	2013															
			整備数	2	2	5															
			年度	2011	2012	2013															
整備数	1	1	4																		
<table border="1"> <tr> <td>専攻語学のガイドライン策定</td> <td>2013年度 新規実施</td> </tr> </table>	専攻語学のガイドライン策定	2013年度 新規実施	<table border="1"> <tr> <td>専攻語学のガイドライン策定</td> <td>2013年度 新規実施</td> </tr> </table>	専攻語学のガイドライン策定	2013年度 新規実施			特記事項													
専攻語学のガイドライン策定	2013年度 新規実施																				
専攻語学のガイドライン策定	2013年度 新規実施																				
<table border="1"> <tr> <td>東南アジア地域などの教育内容の拡充</td> <td>2016年度 新規実施</td> </tr> </table>	東南アジア地域などの教育内容の拡充	2016年度 新規実施	<table border="1"> <tr> <td>・語学授業ガイドラインの整備数 (2011年度2種類→5種類(全学科の専攻語学に整備を完了))</td> <td></td> </tr> </table>	・語学授業ガイドラインの整備数 (2011年度2種類→5種類(全学科の専攻語学に整備を完了))																	
東南アジア地域などの教育内容の拡充	2016年度 新規実施																				
・語学授業ガイドラインの整備数 (2011年度2種類→5種類(全学科の専攻語学に整備を完了))																					
<table border="1"> <tr> <td>外国語運用能力の高い学生の履修環境充実</td> <td>2017年度 新規実施</td> </tr> </table>	外国語運用能力の高い学生の履修環境充実	2017年度 新規実施																			
外国語運用能力の高い学生の履修環境充実	2017年度 新規実施																				
<table border="1"> <tr> <td>・語学授業ガイドラインの整備数 (2011年度2種類→2013年度5種類(全学科の専攻語学に整備を完了))</td> <td></td> </tr> </table>	・語学授業ガイドラインの整備数 (2011年度2種類→2013年度5種類(全学科の専攻語学に整備を完了))																				
・語学授業ガイドラインの整備数 (2011年度2種類→2013年度5種類(全学科の専攻語学に整備を完了))																					

		<p>(京都大学東南アジア研究所特定准教授)を招へいし、「ラオスの民族と言語状況の多様性」の講演会を企画開催した。</p> <p>【成果・効果等】</p> <p>○カリキュラムポリシーをもとに具体的な教育内容や方法等の指針をガイドラインに明文化する過程において、各言語の階程ごと(学年ごと)の教育目的等について各学科の教員間の意識共有を一層図ることにつながった。</p> <p>○eラーニングの利用学生数が増加した。ただし、サービス期間途中に利用しなくなる学生が一定数見られるため、期間の長さ等の検証を行い、さらなる改善を図りたい。</p> <p>○東南アジア地域の教育内容の充実に関して、2016年度の計画年度における内容の取組の検討に向けて、試行的な実績をつくることができた。</p>			
<p>(2) 幅広い教養の修得</p> <p>社会や人間に関する幅広い知識と洞察力の獲得のため、各学科コースにおいて、外国語の背景にある文化・社会に通じた人材育成を行うとともに、学識に基づく多様な教養と知識、さらに深い専門性や学識を学生に修得させる。</p> <p>また、情報リテラシー及び初年次教育の充実を図るとともに、新たに、行政や地域団体などを招へいした講演、学生のフィールドワークの経験など、特色ある教育活動の支援事業を整備す</p>	<p>○日本語学課程や日本文化などの実施体制を強化するとともに、通訳翻訳、異文化コミュニケーション、情報リテラシー、経済・経営分野などの教育体制の強化を検討する。</p> <p>○授業において、地域団体やジャーナリストなどの学外者を招へいするゲストスピーカー制度を試行的に導入する。</p> <p>○学生の図書館利用を促進するとともに、図書館ロビーのリニューアル方針を検討する。</p>	<p>【年度計画の取組状況】</p> <p>○初年次教育において情報ネットワークの使い方や図書館の活用方法を指導した。</p> <p>○織田文雄氏をゲストスピーカーとして招聘し日中関係の重要性に関する理解を深める機会を提供し好評であった。</p> <p>○図書館ロビーをリニューアルし、多様な学修スタイルに対応したラーニングcommons(学修のための共有スペース)を設置した。</p> <p>○学生による魅力ある図書館づくりの一環として、昨年度に引き続き学生による選書ツアーを実施し蔵書を購入した。</p>	A	<p>試行的に導入したゲストスピーカー制度は好評であった。</p> <p>また、図書館ロビーにおいて、多様な学修スタイルに対応したラーニングcommonsを設置することができた。</p>	<p>評価 A</p> <p>特記事項</p>

<p>る。</p> <p>さらに、学術情報センター（図書館）による授業・学修支援などを拡充し、学生の図書館利用を促すとともに、図書館ロビーのリニューアルによる事業充実を行う。</p> <table border="1" data-bbox="152 427 568 507"> <tr> <td>特色ある教育活動の支援事業の創設</td> <td>2014年度 新規実施</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="152 549 568 628"> <tr> <td>図書館ロビーのリニューアル</td> <td>2016年度 新規実施</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="152 663 568 743"> <tr> <td>・図書館の入館件数 (2011年度 164,545件→増加)</td> </tr> </table>	特色ある教育活動の支援事業の創設	2014年度 新規実施	図書館ロビーのリニューアル	2016年度 新規実施	・図書館の入館件数 (2011年度 164,545件→増加)	<table border="1" data-bbox="600 663 1016 743"> <tr> <td>・図書館の入館件数 (2011年度 164,545件→増加)</td> </tr> </table>	・図書館の入館件数 (2011年度 164,545件→増加)	<p>【成果・効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○初年次教育における情報リテラシーの充実など 教育体制の強化等について行うことができた。</li> <li>○ゲストスピーカー制度について、試行的に導入することにより、一定の成果があった。</li> <li>○図書館ロビーをリニューアルし、ラーニングコモンズを設置することにより学生のアクティブラーニングを促進する環境の整備を図ることができた。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1055 663 1536 743"> <tr> <td>・図書館の入館件数 (2011年度 164,545件→2013年度 163,727件)</td> </tr> </table>	・図書館の入館件数 (2011年度 164,545件→2013年度 163,727件)		
特色ある教育活動の支援事業の創設	2014年度 新規実施										
図書館ロビーのリニューアル	2016年度 新規実施										
・図書館の入館件数 (2011年度 164,545件→増加)											
・図書館の入館件数 (2011年度 164,545件→増加)											
・図書館の入館件数 (2011年度 164,545件→2013年度 163,727件)											
<p>(3) 高度な外国語運用能力と幅広い知識に基づく実践的な発信力の強化</p> <p>学生の論理性や表現力を伸ばすため、発表や討論、論文・レポート執筆などの経験を授業の中で積ませることに加え、新たに、学生の自発的な学修を支援するためのスペースなどを整備する。</p> <p>あわせて、外国語での発信力を一層強化するため、ICT（情報通信技術）を活用した情報メディア環境を整備するとともに、本学と地元企業との連携による「全国大学生マーケティングコンテスト」などを実施し、英語のプレゼンテーション力などを磨く機会を提供する。さらに、通訳などの高い英語運</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語でマーケティングプランを競う全国大学生マーケティングコンテストや、学内ビブリオバトル（知的書評合戦）などを開催する。</li> <li>○授業やゼミにおいて、学生が論理的・効果的に発表する能力を養う機会についての現状把握を行う。</li> <li>○教員ニーズを踏まえ、第2AV教室（LL教室）の情報メディア設備を更新整備する。</li> </ul>	<p>【年度計画の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大学生マーケティングコンテストや学内ビブリオバトルを開催することにより、学生への発表機会を提供した。</li> <li>○アメリカの非営利団体の「TED」より承認を受けて、「TED x KCUFS」を開催した（64名参加）。</li> <li>○教員アンケートの結果等を踏まえて、アクティブラーニングに対応した教室と学生の自発的な学修支援スペースを整備する方針を決定した。</li> <li>○第2AV教室の情報メディア設備を更新整備した。</li> </ul> <p>【成果・効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アクティブラーニングに対応した教室等の</li> </ul>	<p>A</p> <p>大学生マーケティングコンテストの実施など、学生への発表の機会を提供するとともに、さらなる発表能力を養う場を提供するために、アクティブラーニングに対応した教室等の整備方針を決定した。</p>	<p>評価 A</p> <p>特記事項</p>							

<p>用能力を獲得する国際コミュニケーションコースの一部科目を全学的に提供する。</p> <table border="1" data-bbox="147 312 573 392"> <tr> <td>学修支援スペースの整備などの環境整備</td> <td>2016年度 新規実施</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="147 432 573 552"> <tr> <td>国際コミュニケーションコースの一部科目の全学的な提供</td> <td>2017年度 新規実施</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大学生マーケティングコンテストの参加大学数 (2011年度13大学→増加 全国大会として定着を図り、学生に質の高い研鑽機会を提供する)</li> <li>・国際コミュニケーションコース修了生のTOEICスコア (2011年度平均903点 →900点超の維持)</li> </ul>	学修支援スペースの整備などの環境整備	2016年度 新規実施	国際コミュニケーションコースの一部科目の全学的な提供	2017年度 新規実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大学生マーケティングコンテストの参加大学数 (2011年度13大学→増加 全国大会として定着を図り、学生に質の高い研鑽機会を提供する)</li> <li>・国際コミュニケーションコース修了生のTOEICスコア (2011年度平均903点 →900点超の維持)</li> </ul>	<p>整備方針を決定することにより、学生が論理的・効果的に発表する能力を養う機会を提供できるようになった。</p> <p>○大学生マーケティングコンテストや学内ビブリオバトル、「TED x KCUFS」を開催するなど、学生の発表機会を提供することにより、プレゼン能力の向上に寄与した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大学生マーケティングコンテストの参加大学数 (2011年度13大学→2013年度13大学)</li> <li>・国際コミュニケーションコース修了生のTOEICスコア (2011年度平均903点 →2013年度平均915点)</li> </ul>		
学修支援スペースの整備などの環境整備	2016年度 新規実施							
国際コミュニケーションコースの一部科目の全学的な提供	2017年度 新規実施							
<p><b>2 開かれた大学院教育</b> (1) 大学院教育の充実</p> <p>大学院教育への多様なニーズに対応するため、研究者の育成に加えて、新たに、高度職業人を養成するための新しい履修制度を導入するとともに、市民のより本格的な生涯学習への関心の高まりを踏まえ、社会人向けのプログラムを新設する。</p> <p>また、通訳翻訳学領域や、現役の英語教師を対象とする英語教育学専攻</p>	<p>○高度職業人を養成するための履修制度として、修士課程における課題研究コースの制度設計を完成させ、学則改正などを行う。</p> <p>○社会人の受入に関する制度設計の基本方針を検討する。</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <p>○修士課程における課題研究コースの設置に必要な学則・規則の改正を行った。</p> <p>○社会人コースに関する制度設計の検討を行った。</p> <p>○大学院説明会を開催するとともに、学内向け大学院説明会においては、アンケート調査を実施した。</p> <p>○大学院は50名の外国人留学生を受け入れており、外国人研究生については19名の応募</p>	<p>B</p> <p>高度職業人を養成するための履修制度として、修士課程における課題研究コースの制度設計を完成することができた。</p> <p>社会人の受入れについては、引き続き</p>	<p style="text-align: center;"><b>評価 B</b></p> <p><b>特記事項</b></p>				

<p>(リカレント・プログラム)の充実を図るほか、外国人留学生の受け入れを促進する。</p> <table border="1" data-bbox="152 312 568 392"> <tr> <td>高度職業人の養成のための履修制度の新設</td> <td>2015年度 新規実施</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="152 432 568 512"> <tr> <td>社会人向けのプログラムの新設</td> <td>2017年度 新規実施</td> </tr> </table>	高度職業人の養成のための履修制度の新設	2015年度 新規実施	社会人向けのプログラムの新設	2017年度 新規実施		<p>があった。(合格者17名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○英語教育学専攻のプログラムの充実のため、ティーチングラボ、レクチャーシリーズを開催し約90名の参加があった。</li> <li>○英語教育学の集中講義を利用し、教員免許状更新講習を提供した。</li> </ul> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○修士課程における課題研究コースの整備を行うことができた。2014年度は、学生募集を行う。</li> <li>○社会人の受け入れについては、引き続き検討していく。</li> </ul>	<p>き検討していく必要がある。</p>	
高度職業人の養成のための履修制度の新設	2015年度 新規実施							
社会人向けのプログラムの新設	2017年度 新規実施							
<p>(2) 研究者の育成</p> <p>大学院生に海外の国際会議などへの積極的な参加を促すとともに、東京外国語大学をはじめ国内外の大学院との研究交流や学生交流を推進するなど、国際的に通用する研究者としての育成を推進する。</p> <p>また、天津外国語大学とのダブルマスター制度を継続するとともに、海外の大学院の提携先の増加を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京外国語大学との第4回合同セミナーや、海外の国際会議発表助成制度を実施する。</li> <li>○天津外国語大学(中国)とのダブルマスター制度を実施するとともに、モナッシュ大学(オーストラリア)と通訳翻訳分野における連携を協議するなど、新たな提携先を検討する。</li> </ul>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○東京外国語大学と第4回合同セミナー(テーマは「現代文学の潮流」)を12月に開催した。</li> <li>○学術国際会議研究発表助成制度により、海外の国際会議などで研究発表を行う大学院生(博士課程)5名に渡航費等の一部を助成した。</li> <li>○天津外国語大学とのダブル・マスター制度を引き続き実施するとともに、モナッシュ大学(豪)とのダブル・マスター制度の協定を締結した。</li> </ul> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○東京外国語大学と継続してセミナーを開催することができた。</li> <li>○学術国際会議研究発表助成制度の活用により、海外の国際会議などへの支援を行うことができた。</li> <li>○モナッシュ大学(豪)とダブル・マスター</li> </ul>	<p>A</p> <p>学術国際会議研究発表助成制度により、海外の国際会議などへの積極的な参加を支援することができた。</p> <p>また、モナッシュ大学とのダブル・マスター制度を新たに締結することができた。</p>	<p style="text-align: center;"><b>評価 A</b></p> <p><b>特記事項</b></p>				



<p>・海外の国際会議発表助成制度の利用者数（博士課程） (2011年度2件→2018年度6件)</p>	<p>・海外の国際会議発表助成制度の利用者数（博士課程） (2011年度2件→2013年度3件)</p>	<p>制度の協定を締結するなど新たに提携することができ一定の成果があった。</p> <p>・海外の国際会議発表助成制度の利用者数（博士課程） (2011年度2件→2013年度5件)</p>			
<p><b>3 教育制度の継続的改革</b> カリキュラムの効果的かつ円滑な運営に努め、授業評価アンケートなどのFD活動を推進する。 また、教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）に基づき、教職課程なども含めた教育制度全般について改善や充実を図るとともに、第2部英米学科の検証及び検討を行う。</p>	<p>○カリキュラムの運営を行い、運営上の課題点への改善や充実を図る。 ○授業評価アンケートなどFD活動を推進する。</p>	<p>【年度計画の取組状況】 ○通年科目の中のポーランド語等を半期科目に変更し半期毎に単位が取得できるよう改善し、その結果、留学予定者が受講しやすいカリキュラムとなった。 ○学生への授業評価アンケートを実施し、授業への総合評価は4.3点（1～5点の評価）と満足度の高い結果を確認するとともに、教育支援事業アンケートを実施した。 ○学生生活調査を実施した。（回収率60.7%） （15頁参照） 【成果・効果等】 ○授業評価アンケート等のFD活動を通じて学生意見を把握することができた。これをもとに各学科において対応策を検討したうえ改善に努めた。 ○学生生活調査の活用方法等について今後検討していく（15頁参照）。</p>	<p>A</p>	<p>学生への授業評価アンケートにおいて満足度の高い結果を確認することができた。</p>	<p>評価 A</p> <p>特記事項</p>



<table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 188 398 312">大学独自の学生調査の導入</td> <td data-bbox="398 188 575 312">2013年度 2016年度 新規実施</td> </tr> </table>	大学独自の学生調査の導入	2013年度 2016年度 新規実施	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="593 188 846 272">大学独自の学生調査の導入</td> <td data-bbox="846 188 1023 272">2013年度 新規実施</td> </tr> </table>	大学独自の学生調査の導入	2013年度 新規実施	<p>ウンセラーとの相談・意見交換を行った。</p> <p>○学生生活調査を実施した。(回収率 60.7%)</p> <p>【成果・効果等】</p> <p>○学生相談室・保健室等についての周知を図ることができた。引き続き、より利用しやすい方法について検討していく。</p> <p>○学生生活調査については、今後集計結果について分析作業を行っていく。</p>	<p>生活調査を実施することができた。</p>	<p>されたい。</p>
大学独自の学生調査の導入	2013年度 2016年度 新規実施							
大学独自の学生調査の導入	2013年度 新規実施							
<p>(2) 就職支援の拡充</p> <p>学生のキャリア形成を支援するため、本学での学びと就業や、男女共同参画などの観点も踏まえた教育や啓発の充実を図るとともに、学生のインターンシップ参加を促進する。</p> <p>また、TOEIC の早期受験の促進などによりスコアアップを支援するとともに、各種ガイダンスや個別面談指導、企業を招へいた採用説明会などの総合的な内定獲得支援を拡充する。</p> <p>このために、キャリアサポートセンターを拡張するとともに、同窓会（楠ヶ丘会）や保護者会（伸興会）などとの連携の充実を図る。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 1153 398 1238">キャリアサポートセンターの拡張</td> <td data-bbox="398 1153 575 1238">2016年度 新規実施</td> </tr> </table>	キャリアサポートセンターの拡張	2016年度 新規実施	<p>○学生のキャリア形成支援を拡充し、学生インターンシップの派遣先を開拓するとともに、新たに神戸市男女共同参画課と連携して女性のキャリアデザインを考える機会を提供する。</p> <p>○TOEIC スコアアップ支援のため、1年生無料受験制度の活用を促進する。</p> <p>○内定獲得支援のため、企業の内定時期の通年化を踏まえて、4月以降も学内の企業採用説明会を開催するとともに、大学院生の就職意向調査を新たに実施する。</p>	<p>【年度計画の取組状況】</p> <p>○キャリアデザイン科目を開講し、大学での学びをその後のキャリアに位置付けることを考える講座を提供し 82 名が受講した。</p> <p>○神戸市が実施している「女子学生社会人力アッププロジェクト」について本学との共催で開催した。</p> <p>○海外インターンシップ制度を新たに設け、2名の学生を派遣した。</p> <p>○TOEIC スコアアップ支援のため、無料受験制度を継続して実施した。</p> <p>○学生に内定獲得機会を提供するため、学内開催の企業採用説明会について 1 カ月延長して行い、159 社を招聘した。</p> <p>○大学院生の就職意向調査を 4 月に実施するとともに、卒業後の進路状況の把握を行った。</p> <p>○入学式の保護者説明会で就職支援状況や内定動向の説明を行った。</p> <p>【成果・効果等】</p> <p>○国内インターンシップに加え、新たに海外インターンシップ制度を設けることができた。引き続きインターンシップの派遣先を</p>	<p>A</p> <p>様々な観点からの就職支援を行うことにより、96.2%の高い内定率を達成することができた。</p> <p>また、学内開催の企業説明会を1カ月延長して行うなど、学生の内定獲得機会を拡充することができた。</p>	<p>評価 A</p> <p>特記事項</p>		
キャリアサポートセンターの拡張	2016年度 新規実施							

<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職内定率 (2011年度 97.1% (全国 93.6%) →全国平均に比べ高水準の維持)</li> <li>・卒業生の就職先等の把握率 (2011年度 100%→維持)</li> <li>・インターンシップ派遣数 (大学あつせん分) (2011年度 16団体 29名 →2018年度に倍増 (58名))</li> <li>・TOEIC 受験者数 (1年生) (2011年度 326名→増加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職内定率 (2011年度 97.1% (全国 93.6%) →全国平均に比べ高水準の維持)</li> <li>・卒業生の就職先等の把握率 (2011年度 100%→維持)</li> <li>・インターンシップ派遣数 (大学あつせん分) (2011年度 16団体 29名 →2013年度 34名)</li> <li>・TOEIC 受験者数 (1年生) (2011年度 326名→増加)</li> </ul>	<p>開拓するとともに、女性のキャリアアップ支援についても継続して行っていく。</p> <p>○各種セミナーやきめ細やかな対応を行うことで、高い就職内定率が維持できた。また、新たに大学院生の就職意向調査及び進路状況の把握を行うことで更なる就職支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職内定率 (2011年度 97.1% (全国 93.6%) →2013年度 96.2% (全国 94.4%))</li> <li>・卒業生の就職先等の把握率 (2011年度 100%→2013年度 100%)</li> <li>・インターンシップ派遣数 (大学あつせん分) (2011年度 16団体 29名 →2013年度 16団体 30名)</li> <li>・TOEIC 受験者数 (1年生) (2011年度 326名→2013年度 315名)</li> </ul>			
--	---	--	--	--	--

(2) 高度な学術研究の推進

法人自己評価					評価委員会評価		
中期計画	年度計画	実施状況	評価	評価理由			
<p><b>1 外国学の研究拠点としての役割の充実</b></p> <p>(1) 大学独自の研究プロジェクト 外国学の研究拠点として特色ある研究活動を推進するため、研究プロジェクトを大学が支援するための制度を整備する。これにより、国際会議やシンポジウムなどを開催するとともに、アジアやヨーロッパ地域の研究、言語学などの研究プロジェクトの立ち上げを検討する。</p> <table border="1" data-bbox="152 719 568 799"> <tr> <td>大学独自の研究プロジェクト支援事業の創設</td> <td>2014年度 新規実施</td> </tr> </table> <p>・研究プロジェクト支援事業の利用件数 (第2期に3件以上)</p>	大学独自の研究プロジェクト支援事業の創設	2014年度 新規実施	<p>○国際会議やシンポジウムの開催を大学が支援するための制度を新たに整備する。</p> <p>○この支援対象となる研究プロジェクトを選定する。</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <p>○国際会議やシンポジウムの開催を支援する制度を創設し、募集を行った。</p> <p>○言語学系で国内最大規模の日本言語学会の大会(第147回)を開催した。</p> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <p>○国際会議やシンポジウムの開催を支援する制度の創設により、研究成果等を発表する機会を提供する仕組みを整備することができた。</p> <p>○大学と共催という形式で学会を開催することができた。今後、開催件数を増やしていく必要がある。</p>	A	<p>新たに国際会議やシンポジウムの開催を支援する制度を創設することにより、研究プロジェクトを大学が支援する制度を整えることができた。</p>	評価 A
	大学独自の研究プロジェクト支援事業の創設	2014年度 新規実施					
特記事項							
<p>(2) 外部資金を活用した研究活動の拡大 教員の外部資金の積極的な獲得を一層促進するため、科学研究費補助金への申請を支援する。特に、若手研究者の申請支援や大型補助金への申請を促す。</p>	<p>○教員や客員研究者の若手研究者を主な対象として、新たに外部講師による科研費申請の講演会を行う。</p> <p>○学内の共同研究班事業をもとに科研費の申請を行うとともに、外部資金を活用した国際会議やシンポジウムの開催促進策を検討する。</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <p>○科学研究費補助金説明会において外部講師を招き講演会を行うとともに、科研費申請アドバイジング窓口を継続して設置するなど、申請や使途に関して総合的な支援を行った。</p> <p>○リサーチプロジェクト事業の採択プロジェクトに科学研究費補助金申請を義務付けることにより申請を促す仕組みを整備した。</p> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <p>○科学研究費補助金説明会の実施、科研費申</p>	A	<p>科学研究費補助金説明会や科研費申請アドバイジング窓口を継続して設置することなどにより、教員が意欲的に外部研究資金の活用に取り組んだ結果、一定の成果が出た。</p>	評価 A		
					特記事項		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費補助金に関わる総件数と研究者の実人数（各年度の受入及び新規申請の合計） (2011年度 80件(うち研究代表者 44件)、49名(うち研究代表者 37名) → 増加)</li> <li>・大型科学研究費補助金(基盤 A 又は B)の新規申請件数 (毎年度 1~2 件申請)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費補助金に関わる総件数と研究者の実人数（各年度の受入及び新規申請の合計） (2011年度 80件(うち研究代表者 44件)、49名(うち研究代表者 37名) → 増加)</li> <li>・大型科学研究費補助金(基盤 A 又は B)の新規申請件数 (毎年度 1~2 件申請)</li> </ul>	<p>請アドバイザー窓口の設置により、外部資金を活用した研究活動を支援することにより、獲得件数が増加した。</p> <p>○リサーチプロジェクト事業の採択プロジェクトに科学研究費補助金申請を義務付けることにより外部資金の獲得を促進する仕組みを整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費補助金に関わる総件数と研究者の実人数（各年度の受入及び新規申請の合計） (2011年度 80件(うち研究代表者 44件)、49名(うち研究代表者 37名) → 2013年度 84件(うち研究代表 53名) 57名(うち研究代表 42名))</li> <li>・大型科学研究費補助金(基盤 A 又は B)の新規申請件数(2013年度 3件申請)</li> </ul>			
<p>(3) 外国学研究所事業の充実</p> <p>多様な地域・学術分野における個人研究活動や、学科・コースを超えた教員間による共同研究や研究交流を支援する。</p> <p>また、近隣大学などとの研究交流を推進するため、神戸研究学園都市大学交流推進協議会(ユニティ)の共同研究班事業への申請を促す。</p>	<p>○学内の共同研究班事業を活性化するための方策を検討する。</p> <p>○神戸研究学園都市大学交流推進協議会(ユニティ)の共同研究班事業に申請する。</p>	<p>【年度計画の取組状況】</p> <p>○リサーチプロジェクト事業を創設し募集を行った。</p> <p>○神戸研究学園都市大学交流推進協議会(ユニティ)の共同研究班事業について、申請を行った。</p> <p>【成果・効果等】</p> <p>○リサーチプロジェクト事業の創設など、共同研究班事業の活性化に寄与する仕組みを作るなど一定の成果があった。</p> <p>○神戸研究学園都市大学交流推進協議会(ユニティ)の共同研究班事業については、引き続き申請を行うとともに、採択に向けて課題等の把握を行い、教員の専門分野の情報提供等を行っていく。</p>	A	<p>学内の共同研究班事業を活性化するため、リサーチプロジェクト事業を創設した。今後、この制度を活用し、教員の研究事業を支援していく。</p>	<p style="text-align: center;"><b>評価 A</b></p> <p><b>特記事項</b></p>

<p><b>2 研究成果等の公表の促進</b></p> <p>学術論文などを保存・公開するリポジトリシステムの本格運用を開始するなど、国内外を問わずウェブ上での研究業績の情報発信を強化する。</p> <p>また、研究成果を市民にも還元するため、大学の研究プロジェクトに関連する講演会や、本学が招へいする研究者などの講演会について、一般市民に公開する。</p> <table border="1" data-bbox="152 587 568 667"> <tr> <td>リポジトリの本格運用</td> <td>2013年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>新規実施</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="152 708 568 788"> <tr> <td>・市民を対象にした講演会の開催件数 (第1期年度平均2件→増加)</td> </tr> </table>	リポジトリの本格運用	2013年度		新規実施	・市民を対象にした講演会の開催件数 (第1期年度平均2件→増加)	<p>○学術論文などを保存・公開するリポジトリシステムの本格実施を開始する。</p> <p>○学外から招へいした研究者や客員教授による講演会などを可能な限り一般市民に公開する。</p> <table border="1" data-bbox="600 587 1016 667"> <tr> <td>リポジトリの本格運用</td> <td>2013年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>新規実施</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="600 708 1016 788"> <tr> <td>・市民を対象にした講演会の開催件数 (第1期年度平均2件→増加)</td> </tr> </table>	リポジトリの本格運用	2013年度		新規実施	・市民を対象にした講演会の開催件数 (第1期年度平均2件→増加)	<p>【年度計画の取組状況】</p> <p>○学術論文などを保存・公開するリポジトリシステムの本格実施を開始した。</p> <p>○学外から招へいした研究者や客員教授による講演会など7件開催した。</p> <p>【成果・効果等】</p> <p>○リポジトリシステムの本格実施を開始することにより、ウェブ上での研究業績の情報発信が強化できた。</p> <p>○市民対象の講演会を7件開催するなど、一般市民への公開を行った。</p> <table border="1" data-bbox="1048 708 1541 788"> <tr> <td>・市民を対象にした講演会の開催件数 (第1期年度平均2件→2013年度7件)</td> </tr> </table>	・市民を対象にした講演会の開催件数 (第1期年度平均2件→2013年度7件)	<p>A</p> <p>リポジトリシステムの本格実施に伴い、研究業績の情報発信を強化するとともに、市民対象の講演会も開催した。</p>	<p>評価 A</p> <p>特記事項</p>
リポジトリの本格運用	2013年度														
	新規実施														
・市民を対象にした講演会の開催件数 (第1期年度平均2件→増加)															
リポジトリの本格運用	2013年度														
	新規実施														
・市民を対象にした講演会の開催件数 (第1期年度平均2件→増加)															
・市民を対象にした講演会の開催件数 (第1期年度平均2件→2013年度7件)															
<p><b>3 海外の研究機関との学術提携</b></p> <p>海外の研究機関の学術提携先を開拓し、本学の研究者のフィールドワークや共同研究、客員研究員の受け入れなど、様々な研究交流を行う。</p> <table border="1" data-bbox="152 1203 568 1283"> <tr> <td>・海外の研究機関との提携数 (2011年度5件→2018年度10件)</td> </tr> </table>	・海外の研究機関との提携数 (2011年度5件→2018年度10件)	<p>○新たな学術提携先の開拓を行うとともに、既存の提携機関との協定更新を検討する。</p> <table border="1" data-bbox="600 1203 1016 1283"> <tr> <td>・海外の研究機関との提携数 (2011年度5件→2013年度6件)</td> </tr> </table>	・海外の研究機関との提携数 (2011年度5件→2013年度6件)	<p>【年度計画の取組状況】</p> <p>○新たな学術提携先の検討を行ったが、提携にまでは至らなかった。また、既存の提携機関との協定更新については協議中である。</p> <p>【成果・効果等】</p> <p>○新たな提携先を引き続き検討し、協定の更新を進めていく。</p> <table border="1" data-bbox="1048 1203 1541 1283"> <tr> <td>・海外の研究機関との提携数 (2011年度5件→2013年度5件)</td> </tr> </table>	・海外の研究機関との提携数 (2011年度5件→2013年度5件)	<p>B</p> <p>新たな学術提携先を開拓することができなかった。引き続き、提携策を検討するとともに、協定の更新を進めていく必要がある。</p>	<p>評価 B</p> <p>特記事項</p>								
・海外の研究機関との提携数 (2011年度5件→2018年度10件)															
・海外の研究機関との提携数 (2011年度5件→2013年度6件)															
・海外の研究機関との提携数 (2011年度5件→2013年度5件)															

(3) 地域貢献

法人自己評価					評価委員会評価			
中期計画	年度計画	実施状況	評価	評価理由				
<p><b>1 市民の生涯学習意欲への対応</b></p> <p>(1) 社会人学生の受入</p> <p>学習意欲や知的探究心の旺盛な市民を社会人学生として受け入れるため、新たに、大学院において社会人向けのプログラムを新設する。</p> <p>また、学部においても、科目等履修生制度の利便向上のための見直しを行うとともに、第2部英米学科の社会人特別選抜を継続する。</p> <table border="1" data-bbox="152 707 568 826"> <tr> <td>大学院における社会人向けのプログラムの創設</td> <td>2017年度 新規実施</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="152 866 568 946"> <tr> <td>・社会人向けのプログラムの大学院生数 (制度創設後、数名を確保)</td> </tr> </table>	大学院における社会人向けのプログラムの創設	2017年度 新規実施	・社会人向けのプログラムの大学院生数 (制度創設後、数名を確保)	<p>○第2部英米学科の社会人特別選抜などで社会人学生を受け入れる。</p> <p>○科目等履修生制度をより使いやすい制度に見直し、学生募集を行う。</p>	<p>【年度計画の取組状況】</p> <p>○第2部英米学科の社会人特別選抜などで社会人学生を20名受け入れた。</p> <p>○科目等履修生制度について、学部と第2部(夜間)の区分を一本化し、希望する時間帯に受講できるよう制度改正を行った。</p> <p>○社会人コースに関する制度設計の検討を行った。</p> <p>【成果・効果等】</p> <p>○科目等履修生制度の改正等より利用しやすい制度に改正を行った。2014年度はこの制度に基づき学生募集を行う。</p> <p>○社会人コースの制度設計について、引き続き検討していく。</p>	A	<p>科目等履修生制度について、学部と第2部の区分を一本化するなどより使いやすい制度に見直すことができた。</p>	評価 A
	大学院における社会人向けのプログラムの創設	2017年度 新規実施						
・社会人向けのプログラムの大学院生数 (制度創設後、数名を確保)								
特記事項								
<p>(2) 市民の生涯学習機会の提供</p> <p>市民の多様な生涯学習ニーズに応えるため、市民講座やオープン・セミナーにおける魅力的なテーマ設定や場所、時間帯などの利便向上を図る。</p> <p>また、神戸市立博物館などとの講演会の共催、大学図書館の市民利用制度などを推進するほか、ユニティの語学講座や公開講座を引き続き提供する。</p>	<p>○講演会形式の市民講座と、少人数制で連続講座のオープン・セミナーを開講し、広報先を拡大する。</p> <p>○市民を対象にした講演会を開催する。</p> <p>○図書館の市民利用制度の利用期間を拡充する。</p>	<p>【年度計画の取組状況】</p> <p>○少人数制で連続講座のオープン・セミナーについては昼間・夕方・夜間の多様な時間帯に開催することにより、160名の参加があった。</p> <p>○市民講座の広報先として書店4店舗に協力してもらうなど、地域におけるちらし設置場所を増やすことにより、市民へのPRを強化した。</p> <p>○神戸市立博物館との講演会の共催を2回実施し248名の参加があった。</p> <p>○市民対象の講演会を7件開催するなど、一般</p>	A	<p>オープンセミナー、市民講座、各種講演会により市民への生涯学習の機会を提供できた。</p> <p>さらに、図書館の利用期間の拡充を継続して行い、活発な市民利用につながった。</p>	評価 A			
					特記事項			



<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープン・セミナーの延べ受講者数 (第1期年度平均156名→増加)</li> <li>・市民講座の延べ受講者数 (第1期年度平均336名→維持)</li> <li>・市民対象の講演会の開催件数 (第1期年度平均2件→増加)</li> <li>・図書館市民利用制度の開放日数 (2011年度110日→増加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープン・セミナーの延べ受講者数 (第1期年度平均156名→増加)</li> <li>・市民講座の延べ受講者数 (第1期年度平均336名→維持)</li> <li>・市民対象の講演会の開催件数 (第1期年度平均2件→増加)</li> <li>・図書館市民利用制度の開放日数 (2011年度110日→増加)</li> </ul>	<p>市民への公開を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館、大学生協で市民講座とタイアップした企画展示を実施した。</li> <li>○図書館の市民利用制度について、引き続き利用期間の拡充を行い115日間開放した。その結果、220名の登録に対して2,592名の入館があり活発な市民利用につながった。</li> </ul> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市民講座のPR強化や市民対象の講演会の開催件数を増やすなど、一定の成果が見られた。</li> <li>○図書館の利用期間の拡充を行うことにより、市民の活発な利用に繋がった。</li> </ul>		
<p><b>2 神戸市の教育拠点としての役割の充実</b></p> <p>(1) 小中高校の英語教育の支援</p> <p>小中学校や高等学校の英語教育支援を拡充し、現職教員の指導力向上を支援するため、小学校外国語活動基本研修、中高英語教員スキルアップ研修、</p>	<p>○2013年度施行の高校の新学習指導要領を踏まえた中高英語教員スキルアップ研修や、小学校外国語活動基本研修、オープンクラス事業</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <p>○現職教員の指導力向上の支援のため、小学校外国語活動基本研修(275名参加)、中高英語科教員スキルアップ研修(129名参加)、4校合同小学校外国語教員研修会(100名参加)、</p>	<p>A</p> <p>小学校教員への研修事業や小学生の外大訪問の受入れなど、外大の特色</p>	<p style="text-align: center;"><b>評価 A</b></p> <p><b>特記事項</b></p>

<p>さらには大学の英語教育や教員養成関連科目を公開するオープンクラスなどの研修事業を推進するとともに、小学生の外大訪問事業、中学生イングリッシュスクールなど、児童・生徒に様々な国際交流機会を提供する。</p>	<p>を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学生の外大訪問や中学生イングリッシュスクール、高校訪問などに加え、中学生イングリッシュフェスティバルを秋季に開催する。</li> <li>○兵庫県高校生英語ディベートコンテストの本学開催を、兵庫県教育委員会及び神戸市教育委員会とともに支援する。</li> </ul>	<p>英語教育オープンクラス等を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学生（2校）の外大訪問と英語インタビューを実施し小学生157名が参加した。</li> <li>○中学生イングリッシュサマースクールを開催し、生徒491名が参加した。また中学生イングリッシュフェスティバル（プレゼンテーション大会）を開催し、14校から約400名が参加した。</li> <li>○兵庫県高校生英語ディベートコンテストを本学で2月に開催し、20校から生徒99名が参加した。</li> <li>○県内他都市や他府県においても、本学英語科教員が研修講師や審査員等を数多く務めた。広域にわたって地域全体の英語教育の充実に大きな役割を果たしている。</li> </ul> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校教員への研修事業や中学生や高校生が英語を使って発表や討論を行う機会を提供することができた。このような機会を提供することにより、引き続き地域の英語教育の拠点としての役割を果たしていく。</li> <li>○研修会等を通じて現職教員の指導力向上等に貢献できた。</li> <li>○英語科教員が広域にわたって研修講師や審査員等を数多く務めることにより地域全体の英語教育の充実に大きな役割を果たすことができた。</li> </ul>	<p>を生かした事業を継続して実施し、小学校における外国語活動を支援することができた。</p>	
---	--	---	---	--

<p>・小中高校の英語教育支援事業 (2011年度6件→増加) ※6件は、小学校外国語活動基本研修、中高英語教員スキルアップ研修、オープンクラス事業、小学生の外大訪問事業、中学生イングリッシュスクール事業、近隣高校への教員・学生派遣事業</p>	<p>・小中高校の英語教育支援事業 (2011年度6件→増加) ※6件は、小学校外国語活動基本研修、中高英語教員スキルアップ研修、オープンクラス事業、小学生の外大訪問事業、中学生イングリッシュスクール事業、近隣高校への教員・学生派遣事業</p>	<p>・小中高校の英語教育支援事業 (2011年度6件→2013年度7件) ※6件は、小学校外国語活動基本研修、中高英語教員スキルアップ研修、オープンクラス事業、小学生の外大訪問事業、中学生イングリッシュスクール事業、近隣高校への教員・学生派遣事業 ※2012年度から「神戸イングリッシュ・フェスティバル」開始</p>			
<p>(2) 高大連携、大学間連携の推進 ユニティを通じて、地域の大学生や高校生に本学の授業の受講機会を提供する。 また、様々な大学間交流を推進するとともに、地域の高校への本学教員や学生の派遣、英語教育に関する各種協議会の開催支援などを行う。</p>	<p>○地域の高校との教員や学生間の教育交流を行う。 ○ユニティにおける他大学との単位互換や職員研修、大学運営の情報交換などを行う。</p>	<p>【年度計画の取組状況】 ○大学連携セミナー「こうべ生涯学習カレッジ」に講師を派遣した。 ○六甲アイランド高校の「神戸学全体発表会」に審査員を派遣した。 ○ユニティの共同事業として公開講座、語学講座、単位互換、高大連携とともに、職員研修、情報交換を行った。また、ユニティ事務局が地下鉄沿線の高校を中心に訪問し高大連携のPR等を行った。 【成果・効果等】 ○セミナーや教員派遣を通じて地域の高校との教育交流を行うことができた。 ○ユニティを通じて、地域の大学生や高校生に本学の授業の受講機会を提供するとともに、大学間の交流を推進することができた。さらに、新たに1校がユニティと高大連携についての協定を締結した。</p>	A	<p>地域の高校や大学連携セミナー等への教員の派遣やユニティの共同事業として行う公開講座や語学講座を通して地域の英語教育活動への支援を行うことができた。</p>	<p>評価 A 特記事項</p>

<p><b>3 語学教員等の輩出</b></p> <p>神戸市をはじめ地域社会の未来を担う小中高生の育成に関わる人材を輩出するため、語学教員などを志望する学生への総合的な支援充実努める。</p> <p>このため、教職志望学生に対し、教職課程科目の開講や履修指導、学校現場へのインターンシップ、教員採用試験に向けた相談支援などを行う。</p> <p>また、他大学との提携により小学校教員免許取得制度を実施する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員免許取得者数（小中高校） （第1期年度平均70名→維持）</li> <li>・教員採用者数（非常勤を含む） （第1期年度平均16名→維持）</li> </ul> </div>	<p>○教職科目の履修学生に採用試験の受験を促すため、履修条件などを見直し、学生に周知する。</p> <p>○教職課程の学生に、担当教員や採用試験合格者などと日常的に交流できる教職サロンを提供する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員免許取得者数（小中高校） （第1期年度平均70名→維持）</li> <li>・教員採用者数（非常勤を含む） （第1期年度平均16名→維持）</li> </ul> </div>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <p>○面接対策、模擬授業等の教員採用セミナーを実施するとともに、教職トークライブ「合格者の話を聞く会」など教職支援行事を5回開催した。</p> <p>○学生への情報発信機能の強化のため、教職サロンを主な教室棟である学舎1階へ移転する方針を決定した。</p> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <p>○教職サロンを移転することにより、教職志望学生への情報提供や利便性の向上等、更なる充実を目指す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員免許取得者数（小中高校） （第1期年度平均70名→2013年度78名）</li> <li>・教員採用者数（非常勤を含む） （第1期年度平均16名→2013年度16名）</li> </ul> </div>	A	<p>教員採用セミナー等の拡充や教職サロンの充実等、教職支援機能を強化することができた。</p>	<p><b>評価 A</b></p> <hr/> <p><b>特記事項</b></p>
<p><b>4 ボランティア活動の支援</b></p> <p>国際支援や教育、地域のまちづくりなど、多様な分野のボランティア活動への学生の参画を促進する。そのために、ボランティアコーナーを拡張し、啓発や活動情報の発信を拡充する。</p> <p>また、スクールサポーターなど学校現場でのボランティア活動を単位認定により促進するとともに、小学校の外国語活動を支援するイングリッシュサポーターを派遣する。</p>	<p>○国際支援、教育支援、地域交流など、多様な学生ボランティア活動への参加を促進する。</p> <p>○大規模災害時の学生ボランティア活動への大学の支援のあり方を検討する。</p> <p>○スクールサポーターやイングリッシュサポーターなどとして、学校現場に学生を派遣する。</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <p>○新入生を対象にボランティア入門講座を開催するとともに、メーリングリストへの登録を呼びかけるなどボランティア活動への参加を促した。また、学生スタッフによりボラコ通信を発行し、学生啓発を行った。</p> <p>○大規模災害時の学生ボランティア活動への支援制度を創設するとともに、4名のボランティアを派遣した。</p> <p>○スクールサポーターやイングリッシュサポーターとして、学校現場に学生を派遣した。</p> <p>○ボランティアコーナーの機能や役割について議論しボランティアコーナーの移転方針を決定した。</p>	A	<p>学生主体のボランティアコーナーの運営を支援するとともに、大規模災害時の学生ボランティア活動への支援制度を創設し、4名のボランティアを派遣することができた。</p>	<p><b>評価 A</b></p> <hr/> <p><b>特記事項</b></p>

<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">ボランティアコーナーの拡張</td> <td style="width: 15%;">2016年度 新規実施</td> </tr> </table>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動への派遣学生数 (ボランティアコーナー、国際交流センターの幹旋分の合計) (2011年度 465名→増加)</li> <li>・スクールサポーターの派遣学生数 (2011年度 33名→維持)</li> <li>・イングリッシュサポーターの派遣学生数 (2011年度 7名→増加)</li> </ul> </div>	ボランティアコーナーの拡張	2016年度 新規実施	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動への派遣学生数 (ボランティアコーナー、国際交流センターの幹旋分の合計) (2011年度 465名→増加)</li> <li>・スクールサポーターの派遣学生数 (2011年度 33名→維持)</li> <li>・イングリッシュサポーターの派遣学生数 (2011年度 7名→増加)</li> </ul> </div>	<p><b>【成果・効果等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティア活動への参加を促すとともに、学生への周知徹底を図ることにより、ボランティア活動への派遣学生が増加した。</li> <li>○大規模災害時の学生ボランティア活動への支援制度を創設することにより、ボランティアの派遣を行うことができた。</li> <li>○スクールサポーター、イングリッシュサポーターとして継続して学校現場へ学生を派遣することについて、ニーズの多様化や授業時間等の兼ね合いを考慮しつつ、さらに学生の活動の機会を広げていく。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動への派遣学生数 (ボランティアコーナー、国際交流センターの幹旋分の合計) (2011年度 465名→2013年度 570名)</li> <li>・スクールサポーターの派遣学生数 (2011年度 33名→2013年度 16名)</li> <li>・イングリッシュサポーターの派遣学生数 (2011年度 7名→2013年度 1名)</li> </ul> </div>		
ボランティアコーナーの拡張	2016年度 新規実施					
<p><b>5 国際都市神戸への貢献</b></p> <p>(1) 神戸市の国際交流事業などへの支援</p> <p>神戸市の姉妹・友好・親善協力都市などとの文化交流事業や、国内外の学術文化団体の事業などに学生や教員を派遣する。</p> <p>また、神戸市教育委員会との提携事業をはじめ、神戸市の各種施策への参</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○神戸市の親善協力都市である大邱市（韓国）の大邱国際大学生フェスティバルに学生を派遣する。</li> <li>○神戸市などが行う国際交流事業や国際スポーツ大会などに通訳ボランティアとして学生を派遣する。</li> </ul>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大邱国際大学生フェスティバルに学生を3名派遣した。</li> <li>○神戸市などが行う国際交流事業や国際スポーツ大会、外国船乗客の案内、海外被災地支援活動への協力などに学生を派遣し、語学力を生かした地域貢献を行った。</li> </ul>	A	<p>神戸市が行う国際交流事業等に学生を派遣し、また市民大学等への講師派遣及び市審議会の委員就任等によ</p>		
				評価 A		
				特記事項		

<p>画と貢献を図る。</p> <p>・市の審議会委員や生涯学習の講師などを務める延べ教員数 (2011年度 15名→増加)</p>	<p>○国際都市神戸への関わりや貢献のあり方について、学長が中心となって本学が果たす意義と内容についての教職員間の共通認識を深めるとともに、今後の方向を検討する。</p> <p>・市の審議会委員や生涯学習の講師などを務める延べ教員数 (2011年度 15名→増加)</p>	<p>○韓国で開催された模擬国連世界大会に学生代表が参加し、名誉表彰を受けた。</p> <p>○国際都市神戸への関わりや貢献のあり方について、地域貢献部会を中心に、今後の方向性等について検討した。</p> <p>○市民大学、講演会等へ講師を派遣するとともに、市等の審議会の委員としての役割を果たした。</p> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <p>○神戸市の国際交流事業への支援を行うとともに、神戸市の各種施策へ参画することができた。</p> <p>○引き続き、国際都市神戸への関わりや貢献のあり方について本学の果たす意義等について検討していく。</p> <p>・市の審議会委員や生涯学習の講師などを務める延べ教員数 (2011年度 15名→2013年度 14名)</p>	<p>り外大としての役割を果たすことができた。</p>	
<p>(2) 地元企業や地域への貢献</p> <p>大学と地域社会とのつながりを深めるため、地域連携に関する学内の拠点機能の充実を図りつつ、地域の行政、団体、地元企業などと連携した地域貢献や教育研究活動を実施する。</p> <p>また、中学生のトライやるウィークなど職場体験実習の受入をはじめ、多様な地域貢献活動の充実に努める。</p>	<p>○学生や教職員の多様な活動を通じて、地域の企業や団体との連携や交流を推進する。</p> <p>○地域の区役所や経済団体、国際機関などを対象に新たな事業提携先を開拓する。</p> <p>○その他、さまざまな地域貢献活動を行う。</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <p>○区役所など、新たな提携先について協議を行ったが、具体的な連携までには至らなかった。</p> <p>○地元企業の商品の販売促進や地域への集客戦略などをテーマに企業と連携した第3回マーケティングコンテストを実施した。</p> <p>○キャンドルイベント等の教職実践演習の一環としている地域連携事業へ参加した。</p> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <p>○大学と地域社会とのつながりを深めるため、様々な団体と連携することにより、地域貢献</p>	<p>B</p> <p>新たな事業提携先を開拓することができなかった。引き続き、民間の国際交流団体等、新たな連携先の開拓を図っていく必要がある。</p>	<p><b>評価 B</b></p> <p><b>特記事項</b></p>

<p>・地域の行政や団体などとの提携数 (2011年度1件→2018年度5件) ※1件は、神戸市教育委員会</p>	<p>・地域の行政や団体などとの提携数 (2011年度1件→2013年度3件) ※1件は、神戸市教育委員会</p>	<p>に役立てた。 ○民間の国際交流団体なども含め、新たな事業提携先を開拓することができなかった。引き続き連携先等の開拓を図っていく。</p> <p>・地域の行政や団体などとの提携数 (2011年度1件→2013年度3件) ※2011年度の1件は、神戸市教育委員会 ※2012年4月に神戸国際協力交流センター、同年5月に神戸市立博物館と協定締結。</p>			
---	---	---	--	--	--

(4) 国際交流

法人自己評価						評価委員会評価
中期計画	年度計画	実施状況	評価	評価理由	評価	
<p><b>1 留学支援制度の拡充</b></p> <p>学生が異文化を体験しながらさまざまな知識や経験を獲得できるよう、派遣留学制度を拡充する。</p> <p>このため、多様な留学先の確保や交換留学枠の拡大を進めるとともに、新たに留学支援基金の創設による経済的支援や、TOEFL 及び IELTS のスコアアップの支援など、総合的な留学支援制度の充実を図る。</p> <p>また、帰国留学生による留学体験談の発表や個別相談会など、留学支援の機会を拡充する。</p>	<p>○新たに留学支援基金を創設するなど、長期留学の経済的支援を拡充する。</p> <p>○交換派遣留学制度を実施するとともに、留学希望者の学内選考手続きの利便向上を図る。</p> <p>○海外留学と就職活動の両立支援のためのパネルディスカッションを実施するほか、留学要件となる TOEFL 及び IELTS の受験支援を拡充する。</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <p>○新たに、荻野スカラシップを創設することにより、留学支援の更なる充実を図った。</p> <p>○交換留学の可否決定後、派遣留学に挑戦できる仕組みを構築することにより、交換派遣留学生制度の利便性向上に努めた。</p> <p>○TOEFL の e ラーニング実施等スコアアップ支援を行った。</p> <p>○帰国留学生による留学体験談の発表会や個別相談会、留学と就活に関するパネルディスカッションを実施した。</p> <p>○新たに海外インターンシップ派遣プログラムを実施した。</p> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <p>○新たに荻野スカラシップを創設したことで、チャレンジ精神の旺盛な大学院生・学部生の留学を支援するための制度が充実した。</p> <p>○新たな選抜方式の導入など、交換派遣留学制度の利便性向上に努めるとともに、TOEFL のスコアアップ支援などにより留学支援の充実を図ることができた。</p> <p>○新たに香港インターンシップ派遣プログラムを実施することにより、大学として海外でコミュニケーション能力の向上を図ることができるシステムを企業と構築することができた。</p>	S	<p>新たに、荻野スカラシップを創設することにより、留学支援の充実を図ることができた。</p> <p>また、新たな海外インターンシップ派遣プログラムを実施することにより、学生のコミュニケーション能力の向上に寄与することができた。</p>	評価 S	
					<table border="1"> <tr> <td>留学支援基金（仮称）の設置</td> <td>2013 年度 新規実施</td> </tr> </table>	留学支援基金（仮称）の設置
留学支援基金（仮称）の設置	2013 年度 新規実施					
留学支援基金（仮称）の設置	2013 年度 新規実施					



<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期留学者数（交換派遣留学） （2011年度31名→2018年度50名）</li> <li>・短期留学者数（派遣留学） （2011年度62名→長期留学者数の動向との関連を確認する）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期留学者数（交換派遣留学） （2011年度31名→2013年度34名）</li> <li>・短期留学者数（派遣留学） （2011年度62名→長期留学者数の動向との関連を確認する）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期留学者数（交換・長期派遣・スペイン派遣派遣留学） （2011年度31名→2013年度58名）</li> <li>・短期留学者数（派遣留学） （2011年度62名→2013年度49名）</li> </ul>					
<p><b>2 外国人留学生の受入れと学内の国際交流機会の拡充</b></p> <p>(1) 日本語プログラムの充実</p> <p>学生が学内で異文化を体験できる機会を増やすため、留学生を対象とした春・秋入学の2学期制の日本語プログラムの充実を図る。</p> <p>特に、留学生数の増加に伴い、同プログラムの拠点スペースの拡張などにより、留学生と学生の交流を一層促進する。</p> <table border="1" data-bbox="152 949 568 1031"> <tr> <td>日本語プログラムの拠点スペースの拡張</td> <td>2016年度 新規実施</td> </tr> </table>	日本語プログラムの拠点スペースの拡張	2016年度 新規実施	<p>○春入学、秋入学の2学期制の日本語プログラムを開講し、留学生を受け入れる。</p> <p>○交換留学の人数枠の増加を踏まえ、安定した留学生受入体制づくりのための日本語プログラムのカリキュラムを再検討する。</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <p>○日本語プログラムの実施として、春学期（4月～7月）12名、秋学期（9月～12月）8名、サマーコース3名の合計23名の留学生（うち国費留学生3名）を受け入れた。</p> <p>○安定した留学生受入体制づくりのため、日本語プログラムについて3コースの柔軟なクラス・プログラム編成が可能になった。</p> <p>○日本人学生との交流を促進するため、2016年度に日本語プログラム教室を移転することを決定した。</p> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <p>○日本語プログラムのカリキュラムを変更し、幅広く対応できる科目を一定数設けたことで、機動的で柔軟な留学生科目を構築し、安定した受け入れ態勢を整えることができた。</p> <p>○日本語プログラム教室の移転に伴い、留学生の学内交流機会の充実を図る。</p>	A	日本語プログラムの実施について、3コース（春学期・秋学期・サマーコース）を設けるなど受入体制の充実を図ることができた。	<p style="text-align: center;"><b>評価 A</b></p> <p><b>特記事項</b></p>
日本語プログラムの拠点スペースの拡張	2016年度 新規実施						

<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語プログラムの留学生数 (2011年度9名→増加)</li> <li>交換留学の人数枠 (2011年度3名→増加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語プログラムの留学生数 (2011年度9名→増加)</li> <li>交換留学の人数枠 (2011年度3名→増加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語プログラムの留学生数 (2011年度9名→2013年度12名) ※上記記載の人数は春学期のみ</li> <li>交換留学の人数枠 (2011年度3名→2013年度13名)</li> </ul>			
<p>(2) 外国人留学生への支援</p> <p>日本語プログラムで受け入れる留学生の生活及び日本語会話支援を行うとともに、同プログラム以外の正規授業科目の履修希望に対応する。また、大学院生などの留学生の奨学金申請や履修手続きなどを支援する。</p> <p>また、留学生と学生の交流を促進し、学生が留学生やALT（外国人英語指導助手）などと外国語などで交流するチャット事業をはじめ、学生ボランティア団体とも連携して国際交流事業の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語プログラムの留学生の生活及び日本語会話支援を行うとともに、住居支援の拡充を検討する。</li> <li>学内で、英語、中国語、日本語など多言語のチャット事業を実施するとともに、学生ボランティアと連携した国際交流事業を行う。</li> </ul>	<p>【年度計画の取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援（メンター）19名、日本語会話パートナー32名の学生ボランティアを確保することにより留学生の支援を行った。</li> <li>英語、ロシア語、中国語、スペイン語、ドイツ語及び日本語のチャットを実施し、868名が参加した。</li> <li>日本語留学生によるスピーチ発表会、シネマプロジェクト、神戸弁語劇において、学生ボランティア団体の協力を得て、そのコンテンツの作成や発表会等の運営を行った。</li> <li>在学生と外国人留学生との交流会を実施した。</li> </ul> <p>【成果・効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チャット事業を継続実施することにより、学生のコミュニケーション力の向上を図ることができた。</li> <li>学生ボランティア団体と連携し、在学生と留学生の交流事業を行うことができた。今後とも、継続して実施する必要がある。</li> </ul>	A	<p>日本語プログラムの留学生の日常生活支援体制を実施し、適切に支援することができた。</p> <p>また、各言語のチャットや様々な発表会を通じて、国際交流事業の充実を図ることができた。</p>	<p style="text-align: center;"><b>評価 A</b></p> <p><b>特記事項</b></p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の生活及び日本語会話支援を行う延べ学生数 (2011年度 27名→増加)</li> <li>・チャット事業の延べ参加学生数 (2011年度 1,224人→増加)</li> <li>・外国人留学生数(大学全体) (2011年度 87名→増加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の生活及び日本語会話支援を行う延べ学生数 (2011年度 27名→増加)</li> <li>・チャット事業の延べ参加学生数 (2011年度 1,224人→増加)</li> <li>・外国人留学生数(大学全体) (2011年度 87名→増加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の生活及び日本語会話支援を行う延べ学生数 (2011年度 27名→2013年度 51名)</li> <li>・チャット事業の延べ参加学生数 (2011年度 1,224人→2013年度 868名)</li> <li>・外国人留学生数(大学全体) (2011年度 87名→2013年度 76名)</li> </ul>			
<p><b>3 海外の教育機関との交流・連携の拡充</b></p> <p>海外の大学などとの交換交流提携先の開拓を推進するとともに、交換教員の受け入れや、招へいした研究者による講演会などを行う。</p> <p>また、海外の大学や大学院と、ダブルディグリー制度やダブルマスター制度などの提携先の増加を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学科の地域を中心に学生の交換交流提携先を開拓する。</li> <li>○ロシア、中国、イスパニア学科での交換教員受入を継続するとともに、国際関係学科又は英米学科でも交換教員などの受入を検討する。</li> <li>○海外の大学や大学院とのダブルディグリー制度やダブルマスター制度などを検討する。</li> </ul>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ローマ大学(伊)、サラマンカ大学(西)、マドリード自治大学(西)、ミュンヘン大学(独)と交換協定を新規に締結した。</li> <li>○ロシア、中国、イスパニア学科での交換教員受入を継続するとともに、国際関係学科においてヴィクトリア大学(加)の教員を集中講義に招へいした。</li> <li>○モナッシュ大学(豪)と通訳翻訳分野に関するダブル・マスター制度の協定を新規に締結した。</li> <li>○ダブル・ディグリー制度について、エルマイラ大学(米)と協定を更新した。</li> <li>○スペイン学長会議に出席し、提携先との交流を行った。</li> <li>○天津外国語大学(中)からダブル・マスター生を受け入れた。</li> </ul> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新規に4大学と交換協定を締結することにより、32大学と締結することになった。</li> <li>○新たにヴィクトリア大学(加)から教員を招へいするなど学生に講義や講演を提供す</li> </ul>	S	<p>新たに4大学と交換協定を締結し、合計で32大学と交換協定を締結することができた。</p> <p>また、モナッシュ大学と新規にダブルマスター制度の協定を締結することができた。</p>	<p style="text-align: center;"><b>評価 S</b></p> <p><b>特記事項</b></p>

<p>・交換交流協定の締結大学数 (2011年度23件→2018年度35件)</p> <p>・海外から招へいた研究者等による講演等件数 (2011年度12件(※)→増加)</p> <p>※交換教員4名、外国人研究者の招へい8件</p>	<p>・交換交流協定の締結大学数 (2011年度23件→2013年度29件)</p> <p>・海外から招へいた研究者等による講演等件数 (2011年度12件(※)→増加)</p> <p>※交換教員4名、外国人研究者の招へい8件</p>	<p>る機会を増やすことができた。</p> <p>・交換交流協定の締結大学数 (2011年度23件→2013年度32件)</p> <p>・海外から招へいた研究者等による講演等件数 (2011年度12件→2013年度9件(※))</p> <p>※交換教員4名、外国人研究者の招へい5件</p>			
---	---	---	--	--	--

(5) 柔軟で機動的な大学運営

法人自己評価						評価委員会評価							
中期計画	年度計画	実施状況	評価	評価理由	評価 A								
<p><b>1 自律的・効率的な大学運営</b></p> <p>(1) 運営体制の改善</p> <p>自律的・効率的な大学運営を推進し、理事長のリーダーシップのもとで教職員の英知を結集するため、役員打合会に加えて学長懇談会を設置する。また、学外の有識者の識見を活用しながら、理事会、経営協議会、教育研究評議会を運営する。</p> <p>また、教育研究及び大学運営の組織体制を適時適切に見直すことにより、中期計画の着実な推進や効率的な執行体制を確保するとともに、法令遵守や大学倫理の徹底を図る。</p>	<p>○大学運営において、教員の活発な議論を促すとともに運営の透明性を確保するため、学長懇談会を定期的で開催する。</p> <p>○中期計画の推進体制を確保するため、部会などの運営状況や組織体制の適切な見直しを図る。</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <p>○様々なテーマで役員と部会との協議を行い、事業における課題等について意思疎通を図った。</p> <p>○学長懇談会を制度化し、学長をはじめとする役員と教員とで自由な意見交換を行うことができる場を整備した。</p> <p>○70周年記念事業実行委員会を立ちあげ、事業の進め方等について役員と協議を行った。</p> <p>○学生生活調査の実施にあたり、役員打合会と部会で様々な議論を行った。</p> <p>○教員の補充人事において、各学科・グループからの要望に基づく役員ヒアリングを実施し、意向を踏まえた適正な人事を行った。</p> <p>○経営協議会の学外委員の委嘱を行った。</p> <p>○今後の情報化関係業務を推進するため、経営企画グループ情報化班と学術情報センターグループ情報メディア班を情報メディア班に再編・統合した。</p> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <p>○役員と部会、学科等との協議の場を設け、コミュニケーションを図る仕組みを構築することにより、テーマに応じて様々な協議を行った。</p> <p>○組織体制の適切な見直しとして情報メディア班へ統合することにより、企画・開発・運用・管理を一体的に行えるようになった。</p>	A	<p>役員と部会、学科等との協議の場を設けることにより、様々な事業の課題等について、意思疎通を図ることができた。</p> <p>また、情報メディア班の統合など組織体制の見直しを行うなど、自律的・効率的な運営体制の整備できたため。</p>	<p><b>特記事項</b></p>								
<table border="1"> <tr> <td>学長懇談会の設置</td> <td>2013年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>新規実施</td> </tr> </table>	学長懇談会の設置	2013年度		新規実施	<table border="1"> <tr> <td>学長懇談会の設置</td> <td>2013年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>新規実施</td> </tr> </table>	学長懇談会の設置	2013年度		新規実施				
学長懇談会の設置	2013年度												
	新規実施												
学長懇談会の設置	2013年度												
	新規実施												

<p>・学外の有識者の役員などへの任命又は委嘱数 (毎年度、5～6名程度)</p>	<p>・学外の有識者の役員などへの任命又は委嘱数 (5～6名程度)</p>	<p>・学外の有識者の役員などへの任命又は委嘱数 (5名)</p>						
<p>(2) 事務などの効率化・合理化 事務の執行状況を定期的に点検し、ICTを活用した事務の効率化や業務の外部委託化など、事務局組織や事務執行の一層の効率化・合理化を図る。</p>	<p>○事務事業改善を一層促進するため、職員の自発的な検討及び提案を支援するための制度を設ける。 ○ペーパーレス会議を拡大する。 ○事務執行体制や事務改善状況を点検する。</p>	<p>【年度計画の取組状況】 ○第2学舎の増築にあたり、教職員による他大学への視察を行い、その成果を「施設見学報告会」として各グループより発表を行う機会を設けた。さらに、その報告に対して学長より表彰を行った。 ○広報関係会議などペーパーレス会議の拡大を図ることにより、会議の効率化・合理化を図った。 ○事務執行体制や事務改善状況を点検するとともに、計画シートに役員打合せコメントを反映させ、進捗状況の把握に努めた。</p> <p>【成果・効果等】 ○教職員が一体となり視察を行いその成果を発表する施設見学報告会を行うことができ、教職員間の連携とモチベーションの向上に寄与した。 ○役員打合せのコメントを各グループにフィードバックする仕組みを整えることにより、適時適切な進捗状況の把握を行った。</p>	<p>A 職員の自発的な検討成果を発表する施設見学報告会などを実施するとともに、事務執行体制や事務改善状況について適時適切な進捗状況の管理を行う仕組みを整えることができた。</p>	<p>評価 A</p>				
<table border="1"> <tr> <td>事務事業の改善提案制度の新設</td> <td>2013年度 新規実施</td> </tr> </table>	事務事業の改善提案制度の新設	2013年度 新規実施	<table border="1"> <tr> <td>事務事業の改善提案制度の新設</td> <td>2013年度 新規実施</td> </tr> </table>	事務事業の改善提案制度の新設	2013年度 新規実施			
事務事業の改善提案制度の新設	2013年度 新規実施							
事務事業の改善提案制度の新設	2013年度 新規実施							
<p>・ペーパーレス会議の拡大 (2011年度7会議68回→増加)</p>	<p>・ペーパーレス会議の拡大 (2011年度7会議68回→増加)</p>	<p>・ペーパーレス会議の拡大 (2011年度7会議68回 →2013年度8会議109回)</p>		<p>特記事項</p>				

<p>(3) 大学データの蓄積及び活用 IR (インスティテューショナル・リサーチ) 機能を強化し、各部会や事務局各グループにおける大学運営情報や学生及び卒業生に関する情報などの収集を進めるとともに、それらの連携や集約による分析や大学運営への活用を図る。</p> <table border="1" data-bbox="152 507 568 587"> <tr> <td>IR をテーマにした役員会の開催</td> <td>2013 年度 新規実施</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="152 628 568 746"> <tr> <td>大学独自の学生調査の導入</td> <td>2013 年度 2016 年度 新規実施</td> </tr> </table>	IR をテーマにした役員会の開催	2013 年度 新規実施	大学独自の学生調査の導入	2013 年度 2016 年度 新規実施	<p>○本学における IR (インスティテューショナル・リサーチ) 機能の方向性や、蓄積するデータの種類、その収集方法などを検討する。 ○中期計画の進捗確認のために各種指標を有効に活用する。</p> <table border="1" data-bbox="600 507 1016 587"> <tr> <td>IR をテーマにした役員会の開催</td> <td>2013 年度 新規実施</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="600 628 1016 708"> <tr> <td>大学独自の学生調査の導入</td> <td>2013 年度 新規実施</td> </tr> </table>	IR をテーマにした役員会の開催	2013 年度 新規実施	大学独自の学生調査の導入	2013 年度 新規実施	<p>【年度計画の取組状況】 ○IR をテーマにした役員打合会を2回開催し蓄積するデータの種類、収集方法等について検討した。 ○教学の IR に着手するため、第1回学生生活調査を企画し、全学生を対象に実施した。 【成果・効果等】 ○IR について、指標・データの活用により学内での課題共有を図る意義に関して共有が図られた。今後、中期計画の進捗確認のために各種指標をどのように有効に活用するのかについて検討していく。</p>	<p>A</p> <p>IR についての課題を学内で共有するとともに、第1回学生生活調査を実施することができた。</p>	<p>評価 A</p> <p>特記事項</p>
IR をテーマにした役員会の開催	2013 年度 新規実施											
大学独自の学生調査の導入	2013 年度 2016 年度 新規実施											
IR をテーマにした役員会の開催	2013 年度 新規実施											
大学独自の学生調査の導入	2013 年度 新規実施											
<p><b>2 人事の適正化</b> (1) 教職員人事の適正化 中期計画を実現し、将来を見据えた教育研究基盤の整備を推進するため、計画的な採用人事、客員教員制度などの活用により適正な人員配置を図り、特色ある教育研究体制を充実する。 また、教員の業績評価制度(ユニット制)に基づく適切な処遇により、意欲の向上や教育研究活動の活性化を引き続き図る。 職員人事について、計画的かつ段階的に市派遣職員を削減しながら、固有職員の採用など適正な人員配置を推進する。</p>	<p>○各専門分野で研究業績の優れた教員を採用する。 ○特色ある教育研究体制の充実のため、新たな客員教員の委嘱を検討する。 ○市派遣職員を2名程度削減し、固有職員の採用など適正な職員配置に努める。</p>	<p>【年度計画の取組状況】 ○専任教員4名の採用を行うとともに、客員教員3名について、引き続き契約の更新を行った。 ○市派遣職員を2名削減するとともに、固有職員3名を採用した。また、2014年度の人員配置を検討し、市派遣職員2名の削減及び固有職員3名の採用者を決定した。 ○障害者雇用促進法を踏まえ、障害者雇用として新たに2014年4月採用者1名を決定した。 【成果・効果等】 ○各専門分野で研究業績の優れた教員を採用するとともに、客員教員制度などを実施し、教育研究体制の充実を図ることができた。</p>	<p>A</p> <p>専任教員、客員教員の採用により特色ある教育研究体制の構築に努めるとともに、固有職員を採用することにより、事務組織についても大学業務の高度化・専門化への対応を図ることができた。</p>	<p>評価 A</p> <p>特記事項</p>								

<ul style="list-style-type: none"> <li>・客員教員数 (2011年度4名→増加)</li> <li>・市派遣職員数 (2011年度30名→減少(毎年2名程度))</li> <li>・固有職員数 (2011年度13名→増加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・客員教員数 (2011年度4名→増加)</li> <li>・市派遣職員数 (2011年度30名→減少(2名程度))</li> <li>・固有職員数 (2011年度13名→増加)</li> </ul>	<p>○今後とも、市派遣職員を計画的かつ段階的に引き上げ、固有職員の採用を進めるとともに、将来中核となる職員の育成を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・客員教員数 (2011年度4名→2013年度3名)</li> <li>・市派遣職員数 (2011年度30名→2013年度26名)</li> <li>・固有職員数 (2011年度13名→2013年度19名)</li> </ul>				
<p>(2) 人材育成の推進</p> <p>職員に対して、研修計画に基づく体系的な研修を実施する。特に、将来の大学運営体制の構築のため、その中核を担う固有職員について、研修や学内の人事異動、さらには管理職登用を通じた人材育成を図る。</p> <p>また、教員の教育研究活動の研鑽の機会として、在外研究や特別研修制度を継続する。</p> <table border="1" data-bbox="152 1077 568 1157"> <tr> <td>係長昇任制度の制定 (職員)</td> <td>2018年度 新規実施</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修受講数 (2011年度延べ125名→維持(業務に必要な研修を適切に受講))</li> </ul>	係長昇任制度の制定 (職員)	2018年度 新規実施	<p>○固有職員の採用時及び3年次研修を行うとともに、職務に必要な各種研修を受講させる。</p> <p>○教員の在外研究制度や特別研修制度を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修受講件数 (2011年度延べ125名→維持(業務に必要な研修を適切に受講))</li> </ul>	<p>【年度計画の取組状況】</p> <p>○固有職員の採用時研修及び3年次研修(神戸市実施の研修)を実施した。</p> <p>○教員の在外研修制度や特別研修制度について募集を行った。</p> <p>○固有職員の適正な人事配置のため、係長への登用をはじめ、職員の人事・給与制度を検討するため、学内での勉強会を開催した。</p> <p>○ユニティ加盟大学との共同研修を行った。</p> <p>【成果・効果等】</p> <p>○職員に対して研修を行い、その成果を業務に活かすことができた。また、学内での勉強会により、人事制度等の理解を深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修受講件数 (2011年度延べ125名→2013年度延べ74名)</li> </ul>	<p>A</p> <p>教職員に業務に必要な研修を適切に受講させるとともに、採用時研修、3年次研修を実施することにより、固有職員の計画的な育成を図ることができた。</p> <p>また、学内での勉強会を開催することにより、知識の習得のみならずモチベーションの向上等に寄与した。</p>	<p style="text-align: center;"><b>評価 A</b></p> <p><b>特記事項</b></p>
係長昇任制度の制定 (職員)	2018年度 新規実施					



<p><b>3 財務内容の改善</b></p> <p>(1) 自己財源の確保</p> <p>授業料などの学生納付金について適正な収入規模を維持するとともに、外部研究資金などの獲得や、文部科学省の補助金などへの申請、施設の外部貸付を推進する。</p> <p>さらに、70周年記念事業に向けて卒業生をはじめ寄付金への協力を広く呼びかけるなど、多様な財源確保に努める。</p>	<p>○70周年記念事業に向けた寄付金の呼びかけを始める。あわせて、寄付金納付の利便向上を検討する。</p> <p>○授業料収入の確保のため、引き続き未納者対応を適切に行うとともに、納付困難者に新たな支援を実施する。</p> <p>○施設の外部貸付を一層促進する。</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <p>○70周年記念事業に向けて、募金部会を中心として多様な寄付方法について検討した結果、神戸市の協力を得てふるさと納税制度を活用した募集を行うことを決定した。</p> <p>○授業料収入の確保のため、引き続き未納者の対応を適切に行うとともに、民間の学費サポートプランも導入した。</p> <p>○施設の外部貸付の促進を行った結果、初めて1千万円を超える使用料収入を確保した。</p> <p>○消費税増税に伴う施設使用料の改定を行った。</p> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <p>○納付困難者に対して、様々な情報提供を行うことにより、確実な授業料収入の確保を図ることができた。</p> <p>○70周年記念事業に向けた寄付金募集については、一定の方向性を決めることができた。(44頁参照)</p> <p>○施設の外部貸付については、利用促進に努めた結果、目標を上回る使用料収入を確保することができた。</p>	A	未納者の対応を適切に行うなど授業料収入の確保に努めるとともに、施設使用料については、1千万円を超える収入を確保できた。	<p style="text-align: center;"><b>評価 A</b></p> <p><b>特記事項</b></p>
<p>・施設の外部団体利用料収入 (6か年合計5千万円を目指す)</p> <p>・寄付金収入 (6か年合計1億円を目指す)</p>	<p>・施設の外部団体利用料収入 (2013年度末までに8百万円以上)</p> <p>・寄付金収入 (2013年度末までに16百万円以上)</p>	<p>・施設の外部使用料収入 2013年度末 11百万円</p> <p>・寄付金収入 2013年度末 30百万円</p>			
<p>(2) 予算の適正化及び効率的な執行 中期計画の実現を図りつつ、総人件費の適正管理や経常経費の削減に努</p>	<p>○職員人件費の計画的な削減により、総人件費の適正管理に努める。</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <p>○市派遣職員を2名削減することにより、2011年度と比較して退職金を除く職員人件費は</p>	A	適正な職員配置に伴い総人件費の	<p style="text-align: center;"><b>評価 A</b></p> <p><b>特記事項</b></p>

<p>め、中期的な財政収支見通しに基づく適正な予算管理を行う。</p> <p>・職員人件費（退職金除く） (2011年度比10%程度の削減)</p>	<p>○他大学との物品の共同購入を新たに実施するなど、効率的な執行に務める。</p> <p>・職員人件費（退職金除く） (2013年度に、2011年度比1.6%程度の削減)</p>	<p>5.5%の削減になった。</p> <p>○神戸大学を中心とした5大学によるPCC用紙とトイレトペーパーの共同調達に参加した。</p> <p>○電気使用量削減のため、学内8棟のLED照明切り替え工事を実施した。(約4,000本)</p> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <p>○計画的に市派遣職員の引き揚げを行うことにより、総人件費の適正管理に努めることができた。</p> <p>○物件費等の削減についても共同調達という新たな取り組みの結果、一定の成果を上げることができた。</p> <p>・職員人件費（退職金除く） (2013年度に、2011年度比5.5%の削減)</p>	<p>適正管理に努めるとともに、LED照明切替工事の実施等により電気使用量の削減に努めることができた。</p>	
<p>(3) 資産の運用管理の改善</p> <p>老朽化した大学施設設備について、長期保全計画に基づく計画的な改修を推進するとともに、設備改修における省エネ機器の積極的活用を行う。</p> <p>また、照明や空調などの適正利用の推進、施設の日常管理などにより大学資産の適正な運用管理を行う。</p>	<p>○体育館の外壁改修や個人研究棟エレベーター改修など、大規模老朽改修工事を行う。</p> <p>○職員と学生による節電パトロールなど、エネルギー使用の適正管理を行う。</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b></p> <p>○長期保全計画に基づき、体育館の外壁改修工事や研究棟エレベーター改修工事等の大規模老朽改修工事を行った。</p> <p>○職員と学生による節電パトロール等を行うことにより、総エネルギー使用量について2010年度比10%削減水準を維持できた。</p> <p>○図書館、大ホールトイレ改修工事を行った。</p> <p>○研究棟への二重窓、網戸設置を行った。</p> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <p>○長期保全計画に基づき概ね大規模修繕を行うことができた。また、エネルギー使用の適正管理を行うことにより削減目標を達成できた。</p>	<p>A</p> <p>長期保全計画に基づき大規模老朽改修工事を行うとともに、エネルギー使用の適正管理を行うことができた。</p>	<p>評価 A</p> <p>特記事項</p>

<p>・総エネルギー使用量 (2010年度比10%削減の水準(465KJ)を維持)</p>	<p>・総エネルギー使用量 (2010年度比10%削減の水準(465KJ)を維持)</p>	<p>・総エネルギー使用量 (2010年度比10%削減の水準(465KJ)を維持)</p>		
<p><b>4 点検及び評価</b> 地方独立行政法人法に基づき、毎年度の業務実績について自己点検評価及び外部評価を受け、中期計画の進捗管理や個別事業の改善や充実に活用する。また、学校教育法に基づく認証評価機関の評価を受ける。 この2つの評価について、相互に関連づけながら効率的かつ効果的にPDCAサイクルを推進するほか、評価結果を速やかに公表し、それらの改善を図る。</p>	<p>○第1期の業務実績評価を受けるとともに、評価結果への対応を行う。 ○2010年度に受審した大学評価結果への対応状況の点検に着手する。</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b> ○第1期の業務実績評価について評価委員会の外部評価を受審した。評価結果について関係部会へフィードバックし、検討を指示した。 ○2010年度に受審した大学評価結果における助言4項目について学内での検討を踏まえ改善報告書の作成に着手した。 <b>【成果・効果等】</b> ○評価委員会結果等を関係部会へフィードバックすることにより、効率的かつ効果的にPDCAサイクルを推進することができた。 ○今後、大学評価結果に対する改善報告書の作成を行い提出する予定である。</p>	<p>A</p> <p>第1期の業務実績評価や2012年度業務実績評価を踏まえた改善充実策を講じることができた。</p>	<p>評価 A</p> <p>特記事項</p>
<p><b>5 情報発信の拡充</b> 多様な広報メディア媒体の活用を推進し、卒業生や高校生も含め、大学のステークホルダーへのきめ細やかな情報発信を行う。 さらに、優秀な学生を引き続き全国から獲得するため、教職員と学生が一丸となりオープンキャンパスや地域の高校、全国各地の進学ガイダンスなどの広報活動を戦略的に拡充する。 また、法人としての社会的説明責任</p>	<p>○オープンキャンパスに加え、地域の高校を主な対象にした入試説明会を新たに実施するとともに首都圏などのガイダンス参加を拡充する。さらに、大学院の入試説明会を新設する。 ○大学ロゴの活用を始めるとともに、記者資料提供などにより大学の活動情報を広く社会に発信する。また、卒業生向けの大学情報の発信を拡充する。</p>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b> ○オープンキャンパスを8月の2日間開催し、延べ4,100名の参加があった。 ○県下等の高校生等を対象にした入試説明会(新規)を11月に開催した。 ○新たに、教育実習に参加する4年生(約40名)が、実習先の高校で大学案内の配布や説明を行う資料を作成した。 ○東京でのガイダンスに参加(7月に2回)するとともに、東京外国語大学オープンキャンパス(11月)にも参加し、来場者へのPR</p>	<p>A</p> <p>オープンキャンパスやガイダンスなどを利用して入試説明会を行うとともに、大学ロゴやホームページの充実により積極的なPRを行うことができた。</p>	<p>評価 A</p> <p>特記事項</p>

<p>を果たすだけでなく、大学の魅力を学内外へ強く発信するため、特色ある教育研究活動や地域貢献事業の情報発信、大学情報の公表に対応する。</p>	<p>○海外への情報発信のため、ホームページ上の動画コンテンツに英語版を追加するとともに、英語版及び中国語版の大学案内を作成する。</p>	<p>を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○東京、福岡、学内及び韓国で大学院入試説明会を開催し、約450名が参加した。</li> <li>○大学ロゴの各種印刷物への使用や、バックパネルやバナーの作成などを行うとともに70周年ロゴも作成し卒業生向けに情報発信を行った。</li> <li>○各種事業に関し、記者資料提供(21件)を行い新聞等へのメディア掲載(9件)につなげた。</li> <li>○ホームページ上の動画コンテンツに英語版を追加するとともに、大学院案内の英語版、大学案内の中国語版(英語版は2011年度作成)を作成した。</li> </ul> <p><b>【成果・効果等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○オープンキャンパスでは、教職員、学生ボランティア(約80名)が一丸となって協力し、大学の魅力をPRすることができ、アンケート回答でも高い満足度を得ることができた。</li> <li>○大学ロゴをデザインに活用するとともに、70周年ロゴも作成し、グローバルな大学のイメージを効果的にPRすることができた。</li> <li>○東京でのガイダンス等により、首都圏の受験生にPRすることができた。</li> <li>○英語版・中国語版のコンテンツにより、海外向けに本学の概要をよりわかりやすく発信することができた。</li> </ul>			
--	---	---	--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ総閲覧件数 (2011年度 374 万件→増加)</li> <li>・オープンキャンパス来場者数 (2011年度 4,200 名 (入学定員 (430 名) の約 10 倍) →維持)</li> <li>・高校等への入試広報件数 (2011年度 39 件→増加)</li> <li>・記者資料提供件数 (2011年度 25 件→増加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ総閲覧件数 (2011年度 374 万件→増加)</li> <li>・オープンキャンパス来場者数 (2011年度 4,200 名 (入学定員の 約 10 倍) →維持)</li> <li>・高校等への入試広報件数 (2011年度 39 件→増加)</li> <li>・記者資料提供件数 (2011年度 25 件→増加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ総閲覧件数 (2011年度 374 万件→2013年度 523 万件)</li> <li>・オープンキャンパス来場者数 (2011年度 4,200 名→2013年度 4,100 名) (入学定員の約 10 倍を維持)</li> <li>・高校等への入試広報件数 (2011年度 39 件→2013年度 43 件)</li> <li>・記者資料提供件数 (2011年度 25 件→2013年度 21 件)</li> </ul>		
<p><b>6 その他業務運営</b> (1) 環境への配慮 教育研究活動や大学運営により生じる地球環境への負荷を低減するため、環境マネジメント活動を推進する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・KEMS ステップ2 (神戸環境マネジメントシステム) の目標達成率 (全項目の目標達成を目指す)</p> </div>	<p>○環境マネジメントシステムを運用し、KEMS ステップ2 を更新する。 ○大学周辺のクリーン作戦への学生参加を呼びかける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・KEMS ステップ2 (神戸環境マネジメントシステム) の目標達成率 (全項目の目標達成を目指す)</p> </div>	<p><b>【年度計画の取組状況】</b> ○7月に審査を受け、KEMS ステップ2 を更新した。6項目の環境改善目標に対して5項目について達成できた。また、KEMS ニュースを全職員へメール配信を行い、啓発に努めた。 ○県下の大学としては初めて関西エコオフィス宣言事業所に登録した。 ○ボランティアコーナースタッフによる学内花壇の花植えと散水を行うとともに、大学周辺の清掃活動を行った。 <b>【成果・効果等】</b> ○3年間の二酸化炭素排出実績などが評価されるエコ大学ランキング (NPO 法人エコ・リーグ実施) で第5位 (国公立大学では第1位) に格付けされた。(127 大学が参加) ○KEMS ステップ2 を更新することにより、環境改善や環境意識の啓発など一定の成果が得られた。</p>	<p>A</p> <p>KEMS ステップ2 の認証取得を更新するとともに、エコ大学ランキングで5位 (国公立大学では1位) に格付けされた。</p>	<p style="text-align: center;"><b>評価 A</b></p> <hr/> <p><b>特記事項</b></p>

<p>(2) 危機管理</p> <p>大規模な自然災害や疾病、事件・事故などの緊急事態に備え、危機管理マニュアルの周知徹底を図り、防火・防災訓練及び学内の防犯対策、情報セキュリティの確保など、平時からの対応に努める。また、学生や教職員の海外渡航時の安否確認など、緊急時に迅速に対応できる体制を確保する。</p>	<p>○学内駐車場などの監視機能の強化を検討する。</p> <p>○学生の海外留学に係る危機管理の啓発を行うとともに、災害等発生時に迅速な安否確認を行う。</p>	<p>【年度計画の取組状況】</p> <p>○防犯カメラを4台増設し、学内駐車場などの監視機能の強化を行った。</p> <p>○危機管理マニュアルの周知徹底に努め、教職員の危機管理意識の徹底に努めた。</p> <p>○海外留学中の事故等については、保険加入を行うことにより対応するとともに、学生に対して海外留学に係る危機管理の啓発を行った。</p> <p>【成果・効果等】</p> <p>○防犯カメラの増設等により、学内の監視機能強化に一定の成果が見られた。</p> <p>○短期派遣海外旅行保険への加入を学生に義務付けるなどの成果が見られた。</p>	A	<p>防犯カメラの設置など学内駐車場の監視機能の強化を図るとともに、教職員の危機管理意識の徹底に努めることができた。</p>	<p>評価 A</p> <p>特記事項</p>
<p>(3) 安全管理の取組</p> <p>学生及び教職員の心身両面における支援のため、定期健康診断や精神面も含めた相談窓口などを運営するとともに、就学又は就労環境を良好に維持するため、大学施設・設備の安全確保などに努める。</p>	<p>○安全衛生委員会を定期的開催し、教職員及び学生の安全管理の取組を推進する。</p> <p>○大学施設・設備の安全点検を実施し、緊急補修などの対応を行う。</p>	<p>【年度計画の取組状況】</p> <p>○安全衛生委員会を2回開催するとともに、教職員の定期健診、メンタルヘルスチェック等を行った。</p> <p>○「相談室だより」を発行し、学生に対して各種の窓口があることを掲示・ホームページなどを通して周知を図った。</p> <p>○学生相談担当教員を設置し、月2回カウンセラーと相談・意見交換を行った。</p> <p>○緊急補修が必要な箇所の有無等、大学施設・設備の安全点検を年2回実施した。</p> <p>【成果・効果等】</p> <p>○学生の精神的な悩みなど個別のニーズに対応することができた。</p>	A	<p>学生相談担当教員の設置など学生や教職員の安全衛生管理の充実を図ることができた。</p>	<p>評価 A</p> <p>特記事項</p>

<p>(4) 教育研究環境の整備</p> <p>将来にわたって魅力ある教育研究環境の整備を推進するため、学生の学修支援のためのスペースの設置、キャリアサポートセンターの拡張をはじめ、学生支援環境の一層の充実を図る。また、ICTの活用を推進し、情報基盤システムなどの機能充実を図る。</p> <table border="1" data-bbox="152 507 568 587"> <tr> <td data-bbox="152 507 398 544">学生支援環境の充実</td> <td data-bbox="398 507 568 544">2016年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="398 544 568 587">新規実施</td> </tr> </table> <p>(具体内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2学舎の増設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修支援スペースの創設</li> <li>・キャリアサポートセンター、ボランティアコーナーの拡張移転 など</li> </ul> </li> <li>・その他の施設充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語プログラム拠点スペースの拡張移転</li> <li>・学生会館のリニューアル</li> <li>・図書館ロビーのリニューアル</li> <li>・大ホールの充実 など</li> </ul> </li> </ul>	学生支援環境の充実	2016年度		新規実施	<p>○第2学舎の増設などの教育研究環境の充実について基本設計を行うとともに、図書館ロビーの再整備の先行実施を検討する。</p> <p>○学生ニーズの大きいトイレ改修について、当面の改修計画を検討する。</p> <p>○情報基盤システムの更新に向けた検討を行う。</p>	<p>【年度計画の取組状況】</p> <p>○第2学舎の増設にあたり、教職員による9大学の視察を行い、その意見を反映した基本設計が完成した。</p> <p>○先行的に図書館ロビーの整備を行い、多様な学修スタイルに対応したラーニングコモンズ(学修のための共有スペース)に生まれ変わった。</p> <p>○トイレ改修について、当面の改修計画を検討するとともに、大ホールのトイレ改修、図書館のトイレ改修を行った。</p> <p>○情報基盤システムの更新・学務システムの更新に向け、調達手続きを開始した。</p> <p>【成果・効果等】</p> <p>○第2学舎の増設については、教職員の意見を反映させた基本設計を策定できた。今後、基本設計に基づき実施設計を完成させる。</p> <p>○情報基盤システムについては、様々な課題等を検討し、調達手続きを行うことができた。</p> <p>○図書館ロビーをリニューアルし、ラーニングコモンズを設置することにより学生のアクティブラーニングを促進する環境の整備を図ることができた。</p>	A	<p>図書館ロビーが多様な学習スタイルに対応したラーニングコモンズに生まれ変わるなど充実した教育研究環境の整備を図ることができた。</p>	<p style="text-align: center;">評価 A</p> <p>特記事項</p>
学生支援環境の充実	2016年度								
	新規実施								
<p>(5) 創立70周年記念事業の企画及び実施</p> <p>創立70周年を契機とした教育研究活動、学生支援の制度や環境の充実、記念誌の発行及び特別講演会の開催など、記念事業を実施し、広く社会に発信する。</p>	<p>○学内教職員による実行委員会を設置し、70周年記念事業としての取組内容を企画する。</p> <p>○同窓会、保護者会、学生団体、大学生協などを構成員とした連絡協議会</p>	<p>【年度計画の取組状況】</p> <p>○70周年記念事業実行委員会を立ち上げるとともに、三つの専門部会(記念誌編集部会、記念事業部会、募金事業部会)を立ち上げた。</p> <p>○神戸市の協力による「ふるさと納税制度」</p>	A	<p>70周年記念事業実行委員会や三つの専門部会を立ち上げるなど事業の推進体制を整備す</p>	<p style="text-align: center;">評価 A</p> <p>特記事項</p>				

<p>これに向けて、同窓会（楠ヶ丘会）や保護者会（伸興会）など大学関係者の結びつきを一層深め、卒業生同士、あるいは大学や学生との交流の活性化を図る。</p> <table border="1" data-bbox="152 363 568 443"> <tr> <td data-bbox="152 363 398 403">70周年記念事業の開催</td> <td data-bbox="398 363 568 403">2016年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="398 403 568 443">新規実施</td> </tr> </table>	70周年記念事業の開催	2016年度		新規実施	<p>を立ち上げる。</p>	<p>による寄付の受け入れを前提とした制度設計を行った。</p> <p>○創立 70 周年記念事業にかかるロゴを作成し、各種広報媒体などで使用していくことを決定した。</p> <p>【成果・効果等】</p> <p>○70 周年記念事業実行委員会を立ち上げ、取組内容について検討した。</p> <p>○「ふるさと納税制度」による寄付の受け入れ等利便性の高い収納方法を実施した。</p> <p>○70 周年ロゴの決定により、広く社会に発信していく。</p>	<p>ることができた。</p>	
70周年記念事業の開催	2016年度							
	新規実施							
<p>(6) 内部統制</p> <p>内部統制として、業務の適正を確保し、社会的信用を高めるためのリスクマネジメントや効率性の向上などのため、内部監査を計画的に実施し、必要な業務改善を行う。</p>	<p>○各種の内部監査を年度計画に基づき実施する。</p> <p>○前年度の監査結果を踏まえた業務改善状況を点検する。</p>	<p>【年度計画の取組状況】</p> <p>○内部監査計画に基づき、科学研究費に関する内部監査や神戸市に準じた自主監査などを実施したが、特に改善を要する結果はなかった。</p> <p>○文部科学省の「公的研究費の管理・監査に関する研修会」に引き続き参加し情報収集を行った。</p> <p>【成果・効果等】</p> <p>○各種監査を通じて、必要な業務改善等を行うことができた。</p>	<p>A</p> <p>内部監査を実施し、法令遵守や業務の効率性の確保を図ることができた。</p>	<p>評価 A</p> <p>特記事項</p>				



## 大学の概要

### 1. 大学名

公立大学法人神戸市外国語大学

### 2. 所在地

神戸市西区学園東町9丁目1

### 3. 設立年月日

平成19年4月1日

(昭和21年 神戸市外事専門学校設立、昭和24年神戸市外国語大学へ昇格)

### 4. 資本金の状況

8,813,900,000円(全額神戸市出資)

### 5. 役員の状況(平成26年5月現在)

理事長 船山 仲他

理事 中野 潤一

理事 新野 緑

理事 指 昭博

監事 岡村 修

### 6. 学部等の構成

○外国語学部(英米学科、ロシア学科、中国学科、イスパニア学科、国際関係学科、  
第2部英米学科)

○外国語学研究所(英語学専攻、ロシア語学専攻、中国語学専攻、イスパニア語学専攻、国際  
関係学専攻、日本アジア言語文化専攻、英語教育学専攻、文化交流専攻)

○外国学研究所

○学術情報センター

### 7. 学生数および教職員数(平成26年5月現在)

総学生数 2,253人

学部学生 2,135人

大学院修士課程 77人

大学院博士課程 41人

教職員数 155人

教員 87人

職員 68人

### 8. 目標

神戸市外国語大学は、神戸市における外国語及び国際文化に関する実践教育及び理論研究の中心として市民の大学教育に対する要請にこたえ、もって文化及び教育の面で地域社会及び産業の発展に貢献するとともに、我が国その他世界の高等教育及び学術研究の向上に寄与することを目的とする。

また、その運営にあたっては、理事長(兼学長)の適切な運営の下、学外からの意見も積極的に採り入れ、時代と社会の変化に迅速に対応し、自律的で効率的な大学運営を行ない、国際的に通用する人材の育成、高度な研究・教育の推進、地域貢献、国際交流の達成に努めていく。

**アドミッションポリシー (p. 15)**

「入学者受入れ方針」であり、各大学・学部等がその教育理念や特色等を踏まえ、どのような教育活動を行い、どのような能力や適性等を有する学生を求めているのかなどの考え方をまとめたもの。受験者が自らにふさわしい大学を主体的に選択する際の参考となる。

**イングリッシュサポーター制度 (p. 2, 6, 25, 26)**

2009年度の2学期から神戸市教育委員会が導入した制度で、大学生や英語に堪能な地域人材がイングリッシュサポーターとして小学校に派遣され、小学校英語活動を担当する教員の授業補助や教材作成補助などの活動を行うもの。

**インターンシップ (p. 2, 4, 7, 16, 17, 29)**

学生が在学中に、企業等において自らの専攻や将来希望する職業に関連した就業体験を行うこと。

**英語教育オープンクラス事業 (p. 23, 24)**

外国語大学と神戸市教育委員会との連携協力協定によるアクションプログラムに基づき、2011年度に新規実施した英語教育支援事業。外国語大学のリカレント・プログラムなどの授業を現職の小中高の先生方などが参観し、指導力向上や教員養成について研究協議する。

**荻野スカラシップ (p. 2, 7, 29)**

外国語大学の卒業生である荻野正明氏により頂いた寄付金を財源として、外国語大学在学生の留学支援を行う。特に難易度の高い留学を目指すチャレンジ精神が旺盛な院生・学部生を支援することを目的としている。

**科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）(p. 2, 5, 18, 19)**

文部科学省が所管する助成事業で、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究を発展させることを目的とする競争的研究資金である。

**学務システム (p. 44)**

学生情報やシラバスなど教務全般のデータを管理し、授業時間割管理、履修登録管理、学籍情報管理などを行う大学の基幹業務システムのこと。

**カリキュラム (p. 10, 14)**

教育課程のこと。なお、大学設置基準で、大学は、その教育理念や目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成することとされている。

**キャリアデザイン (p. 16)**

自分自身の職業人生や経歴について自らが主体となって構想し実現していくこと。

**情報リテラシー (p. 10, 11)**

情報技術を使いこなす能力と、情報を読み解き活用する能力のこと。

### **スクールサポーター制度、学校インターンシップ制度 (p. 2, 6, 25, 26)**

神戸市教育委員会の制度で、教員志望の大学生を小中高等学校へ配置し、多様な教育活動を補助する機会を提供するとともに、教職にむけての資質を向上させることを目的とした制度。スクールサポーターは派遣先が小中学校で、学校インターンシップは高等学校。

### **ダブルディグリー制度 (p. 7, 32)**

学部在籍しながら協定校の学部の一定のプログラムを修了することにより、両方の大学の学位（ディグリー）を同時取得することができる制度。

### **ダブルマスター制度 (p. 2, 4, 7, 13, 32)**

大学院に在籍しながら協定校の大学院の一定のプログラムを修了することにより、両方の大学院の修士号（マスター）を同時取得することができる制度。

### **チャット事業 (p. 31)**

学生を対象に、留学生や市内のALTと外国語でおしゃべりする場を提供する国際交流事業。ALTチャット（英語）、留学生チャット（出身国に応じて多言語）、日本語チャット（留学生と日本語で交流）の3種類を実施している。

### **特任教授制度、客員教員制度 (p. 20, 36, 37)**

外国語大学の特任教授制度は、大学が特に必要と認めた場合に大学の内外を問わず定年等で退職した顕著な業績を有する教員を採用する制度。また、客員教員制度は学術、文化、実業、行政等の分野において優れた知識や経験を有する者を招へいする制度。

### **日本語プログラム (p. 7, 30, 31, 44)**

外国語大学が留学生の受入のために開講するプログラム。通称、JLP (Japanese Language Program)。通常、春学期と秋学期の2学期制で開講し、海外の大学・大学院の学生を、本学学位の取得を目的としない非正規留学生として受入れている。また、大使館推薦の日本語・日本文化研修留学生(国費外国人留学生)も受入れている。

### **ビブリオバトル (p. 4, 11, 12)**

知的書評合戦。発表者がおすすめの本を持ち合い、1人5分の持ち時間で書評を発表した後、発表者や聴講者が一番読みたくなった本を投票して決める。活字離れが言われる中、いい本に出会える仕組みを実現した取組で、短時間でのプレゼンテーション能力の向上も期待される。2007年に京都大学から広まり、多くの大学等で導入が進む。

### **ふるさと納税**

個人が都道府県・市区町村に対して2,000円を超える寄附を行ったときに、2,000円を超える部分について、一定の上限まで、原則として所得税・個人住民税から全額控除を受けることができる制度

### **マーケティングコンテスト (p. 4, 6, 11, 12, 27)**

神戸市内の地元企業等から毎年違うテーマをいただき、そのテーマに対する具体的なマーケティングプランを全国から参加した大学生チームが英語で発表し競い合うことにより、学生の創造力、企画力、発信力、英語力などの向上を目指している。

### **模擬国連 (p. 2, 6, 27)**

実際の国連会議のシミュレーションにより国際問題への理解を深めるとともに、交渉力や議論の能力を高めることを目的とした教育活動。実際に国連で議論となっているテーマについて、各人もしくは各グループがある特定の国の外交官・外交団としてその国を代表して他国と交渉しつつ、決議への自国の利害の反映を図る。なお、本学ではすべて英語で行う JUEMUN（日本大学英語模擬国連大会）を実施している。

### **ユニット制 (p. 36)**

外国語大学の教員の業績を反映した手当制度。2007年4月の法人化後に導入し、段階的に対象業務を追加し、教員の業務全体を対象として実施している。具体的には各教員の教育、研究、学内委員会、地域貢献活動の業績を数量化し、一定の基準を超えた場合に業績に応じて支給額を決定する仕組み。

### **ユニティ (UNITY) (p. 5, 19, 21, 24, 37)**

神戸研究学園都市周辺にある5大学1高専が、教室や会議室などを備えた大学共同利用施設「ユニティ (UNITY)」を設置し運営している。ここでは加盟大学間での単位互換授業、大学教員の研究交流、市民を対象とした公開講座などの事業が行われている。

### **ラーニングコモンズ (p. 2, 4, 10, 11, 44)**

複数の学生が集まって、電子情報や印刷物等の様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学修スタイルを可能にする総合学修スペースである。ホワイトボードや電子黒板、可動式のテーブル・椅子などの機器や設備、図書館職員や院生のラーニングアドバイザーなど人的なサポートを配し、学生の自由で主体的な学修を支援する場として、大学で整備が進んでいる。

### **リカレント・プログラム (p. 13)**

外国語大学の大学院修士課程の英語教育学専攻のこと。小中高等学校等の現職教員を対象とし、教育実践の場を維持しながらより高度な教育研究を通して教員として成長するためのプログラム。

### **リサーチプロジェクト (p. 5, 18, 19)**

専任教員と国内外の研究者との共同研究の促進を図ることを目的とする制度

### **リポジトリ (p. 2, 5, 20)**

大学及び研究機関等において作成された論文等の知的生産物を電子的に保存し、発信するためのインターネット上の保存書庫。研究者自らが論文等を掲載していくことによる学術情報流通の変革と同時に、大学等における教育研究成果の発信、知的生産物の長期保存などの上で、大きな役割を果たす。

### **A L T (Assistant Language Teacher) (p. 31)**

神戸市立中高校・盲・養護学校に配置される外国人英語指導助手のこと。

### **A V教室、C A L L機能 (p. 11)**

A V教室とは音響映像設備を備えた教室で、外国語大学は第1～5A V教室と応用視聴覚教室の6室を整備。第1～2A V教室はL L機能(※1)、第3～5A V教室にはC A L L機能(※2)を備えるほか、応用視聴覚教室は同時・逐次通訳できる会議システムで、実践的なスピーチ、ディベート、会議通訳などの演習ができる。

(※1) LL機能 (Language Learning)

…教材送付、教師と学生間のコミュニケーション制御やペアレッスン機能を持つ。写真や絵などの教材、ビデオや映画などの映像、海外衛星放送を利用して行う講義も可能。

(※2) CALL機能 (Computer Assisted Language Learning)

…LL機能にフルデジタル学習システムを加え、さらに映像教材や音声教材を使ったシャドウイング (聞いた英語をすぐに追いかけて口に出す英語学習法) やリピーティングなどの個別学習のサポートなども可能。

### **e ラーニング (p. 4, 7, 9, 10, 29)**

コンピュータやインターネット等を活用して行う学習のこと。時間などを選ばずに学習でき、個々の学習者の能力に合わせて学習内容や進行状況を設定できる。外国語大学では英語学習システムを導入し、TOEIC対策講座などを提供する。

### **FD (Faculty Development) (p. 14, 15)**

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。

### **IELTS (International English Language Testing System) (p. 29)**

海外留学や研修のために英語力を証明する必要がある場合等に行うテストのこと。

### **IR (インスティテューショナル・リサーチ) 機能 (p. 36)**

大学の様々なデータを収集して数値化、可視化することにより、教育・研究、学生支援、大学経営等に活用すること。

### **KEMSステップ2 (Kobe Environmental Management System) (p. 8, 42)**

神戸市が、環境マネジメントシステムの国際規格である ISO14001 の受審には規模や経済面などの面で一定の制約のある中小事業者の環境保全活動を支援するために、2004 年度から運用開始した神戸独自の神戸環境マネジメントシステムのこと。地元企業や経済団体、神戸市、兵庫県から構成されるこうべ環境フォーラムが運営主体。なお、環境問題に取り組み始めた段階を想定したステップ 1 と、ISO14001 と同じ要求項目が設けられたステップ 2 がある。

### **TED x KCUFS (p. 11, 12)**

TED (Technology Entertainment Design) は、学術・エンターテインメント・デザインなど様々な分野の人物がプレゼンテーションを行う取り組み。参加者はディスカッションを通してアイデアを共有し、横のつながりを広げていく場でもある。TED の精神である「ideas worth spreading」の精神のもとに、世界各地で「TEDx」が発足しており、本学でも「TEDxKCUFS」に取り組んでいる。

### **TOEIC (Test of English for International Communication) (p. 12, 16, 17)**

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価するテストのこと。

## 公立大学法人神戸市外国語大学の業務実績に関する評価方針

この方針は、神戸市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が、公立大学法人神戸市外国語大学（以下「法人」という。）の評価を実施するにあたっての基本的な考え方や評価方法等について定めるものである。

### 1. 評価の基本的な考え方

- (1) 評価は、教育研究の特性や運営の自主性・自律性に配慮して行うものとする。
- (2) 中期目標・中期計画の実施状況等を踏まえ、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的に評価を行い、改善すべき点等を明らかにし、評価を通じた法人の質的向上に資するものとする。
- (3) 中期目標・中期計画の見直しが必要と考えられる場合には、法人の意見を踏まえつつ、その見直しについて必要な意見を述べるものとする。
- (4) 評価を通じて、法人の中期目標・中期計画の達成に向けた取組状況やその成果をわかりやすく示し、市民への説明責任を果たすものとする。
- (5) 評価に関する作業が、法人の過重な負担にならないよう留意するものとする。

### 2. 評価方法

- (1) 評価は、地方独立行政法人法（以下「法」という。）第 28 条に定める各事業年度に係る業務の実績に関する評価（以下「年度評価」という。）及び第 30 条に定める中期目標に係る業務の実績に関する評価（以下「中期目標評価」という。）を実施する。
- (2) 評価は、法人の自己評価に基づいて行うことを基本とする。また、教育研究に関しては、その特性に配慮し、事業の外形的・客観的な実施状況の評価を行うこととし、専門的な観点からの評価は行わない。なお、中期目標評価は、法第 79 条の規定に基づき認証評価機関の評価を踏まえる。
- (3) 評価は、「項目別評価」と「全体評価」により行う。ただし、法人の自己評価は項目別評価のみを行う。

#### (年度評価)

項目別 評価	中期計画項目評価	中期計画に定められた項目ごとに実施状況を確認し評価を行う
	中期目標項目評価	中期目標に定められた基本目標ごとに実施状況を確認し評価を行う
全体評価		項目別評価の結果を踏まえ、中期目標・中期計画の達成に向けた実施状況について総合的に評価を行う

#### (中期目標評価)

項目別 評価	中期計画項目評価	中期計画に定められた項目ごとに達成状況を確認し評価を行う
	中期目標項目評価	中期目標に定められた基本目標ごとに達成状況を確認し評価を行う
全体評価		項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の達成状況について総合的に評価を行う

(4) 項目別評価は、下記の基準により行う。

(年度評価)

S	中期目標・中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である
A	中期目標・中期計画の達成に向け順調に進捗している
B	中期目標・中期計画の達成に向けやや遅れている
C	中期目標・中期計画の達成に向け大幅に遅れている

(中期目標評価)

V	中期目標・中期計画の達成状況が非常に優れている
IV	中期目標・中期計画の達成状況が良好である
III	中期目標・中期計画の達成状況が概ね良好である
II	中期目標・中期計画の達成状況がやや不十分である
I	中期目標・中期計画の達成状況が不十分である

### 3. 年度評価の実施方法

#### (1) 法人による自己評価

- ①各事業年度終了後に評価委員会に提出する業務実績報告書において、下記②～⑤のとおり記載等を行う。
- ②中期計画項目評価は、年度計画に定められた項目ごとに実施状況を明らかにした上で、4段階評価を行うとともに評価理由を記述する。
- ③中期目標項目評価は、中期計画項目評価を踏まえ総合的に判断し4段階評価を行うとともに実施状況の概要及び評価理由を記述する。
- ④業務実績報告書における特記事項として、中期計画や年度計画には記載していないが力を入れている取り組み、あるいは、以前に評価委員会から指摘された事項に対する取り組みなどについて記述する。
- ⑤業務報告書を提出する際には、例えば学生等に対するアンケート結果など評価委員会による評価の参考となる資料を添付する。

#### (2) 評価委員会による評価

- ①評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績について調査・分析し評価を行う。
- ②中期計画項目評価は、4段階評価を行い、法人の自己評価に異議がある場合や指摘・助言がある場合など特記事項がある場合のみ、その内容を記述する。
- ③中期目標項目評価は、中期計画項目評価を踏まえ総合的に判断し4段階評価を行うとともに評価理由を記述する。
- ④全体評価は、項目別評価を踏まえ、中期目標・中期計画の達成に向けた実施状況等について総合的に判断し、記述による評価を行う。また、法人の質的向上に資すると考えられる指摘・助言等を積極的に記述する。

### 4. 中期目標評価の実施方法

#### (1) 法人による自己評価

- ①中期目標期間終了後に評価委員会に提出する業務実績報告書において、下記②～⑤のとおり記載等を行う。
- ②中期計画項目評価は、中期計画に定められた項目ごとに達成状況を明らかにした上で、5段階評価を行うとともに評価理由を記述する。

- ③中期目標項目評価は、中期計画項目評価を踏まえ総合的に判断し5段階評価を行うとともに達成状況の概要及び評価理由を記述する。
- ④業務実績報告書における特記事項として、中期計画には記載していないが力を入れた取り組み、あるいは、以前に評価委員会から指摘された事項に対する取り組みなどについて記述する。
- ⑤業務報告書を提出する際には、例えば学生等に対するアンケート結果など評価委員会による評価の参考となる資料を添付する。

## **(2) 評価委員会による評価**

- ①評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績について調査・分析し評価を行う。
- ②中期計画項目評価は、5段階評価を行い、法人の自己評価に異議がある場合や指摘・助言がある場合など特記事項がある場合のみ、その内容を記述する。
- ③中期目標項目評価は、中期計画項目評価を踏まえ総合的に判断し5段階評価を行うとともに評価理由を記述する。
- ④全体評価は、項目別評価を踏まえ、中期目標・中期計画の達成状況等について総合的に判断し、記述による評価を行う。また、法人の質的向上に資すると考えられる指摘・助言等を積極的に記述する。

## 5. 評価結果の活用

- (1) 評価結果の通知を受けた法人は、法人の業務改善及び役員の処遇に評価結果を活用する。
- (2) 評価結果の報告を受けた市長は、次期中期目標に向けて、法人の組織及び業務全般のあり方等について評価結果を活用する。

## 6. 評価を受ける法人が留意すべき事項

- (1) 評価委員会は、法人から提出される業務実績報告書等をもとに評価を行うことから、法人は、実施状況ができるだけ明らかになるよう工夫し、説明責任を果たすことに最大限の努力を行うこと。
- (2) 法人は、目標の達成に向け、組織内の責任の所在を明確にし、自己評価の実施体制を確立すること。
- (3) 法人は、自己評価の結果や自己改善の方法等について、大学の利害関係者である学生や市民の視点に立ち、わかりやすい説明に努めること。